品質管理基準及び規格値

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認
1 セメント・コンクリート（転圧コンクリート・コンクリートダム・覆工コンクリート・吹付けコンクリートを除く）	材料	必須	アルカリ骨材反応対策	「アルカリ骨材反応抑制対策について」（平成１４年７月３１日付け国官技第１１２号、国港環第３５号、国空建第７８号）	「アルカリ骨材反応抑制対策について」（平成１４年７月３１日付け国官技第１１２号、国港環第３５号、国空建第７８号）	骨材試験を行う場合は、工事開始前、工事中１回／６ヶ月以上および産地が変わった場合		○
			水セメント比		鉄筋　５５％以下 無筋　６０％以下		水密性を要する構造物	○
		その他	骨材のふるい分け試験	JIS A 1102 JIS A 5005 JIS A 5011-1～3	設計図書による。	工事開始前、工事中１回／月以上および産地が変わった場合。		○
			骨材の密度及び吸水率試験	JIS A 1109 JIS A 1110 JIS A 5005 JIS A 5011-1～3	絶乾密度：2.5以上 細骨材の吸水率：3.5%以下 粗骨材の吸水率：3.0%以下 （砕砂・砕石、高炉スラグ骨材、フェロニッケルスラグ細骨材、銅スラグ細骨材の規格値については摘要を参照）	工事開始前、工事中１回／月以上および産地が変わった場合。	JIS A 5005（砕砂及び砕石） JIS A 5011-1（高炉スラグ骨材） JIS A 5011-2（フェロニッケルスラグ細骨材） JIS A 5011-3（銅スラグ細骨材）	○
			粗骨材のすりへり試験	JIS A 1121 JIS A 5005	40%以下、舗装コンクリートは35%以下 但し、積雪寒冷地の舗装コンクリートの場合は25%以下	工事開始前、工事中１回／年および産地が変わった場合。		○
			骨材の微粒分量試験	JIS A 1103 JIS A 5005	粗骨材：1.0%以下 細骨材：コンクリートの表面がすりへり作用を受ける場合 3.0%以下、その他の場合 5.0%以下（砕砂およびスラグ細骨材を用いた場合はコンクリートの表面がすりへり作用を受ける場合 5.0%以下その他の場合7.0%以下）	工事開始前、工事中１回／月以上および産地が変わった場合。 （山砂の場合は、工事中１回／週以上）		○

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認
1 セメント・コンクリート（転圧コンクリート・コンクリートダム・覆工コンクリート・吹付けコンクリートを除く）	材料	その他	砂の有機不純物試験	JIS A 1105	標準色より淡いこと。濃い場合でも圧縮強度が90%以上の場合は使用できる。	工事開始前、工事中１回／年以上および産地が変わった場合。	濃い場合は、JIS 5308「モルタルの圧縮強度による砂の試験」付属書３による。	○
			モルタルの圧縮強度による砂の試験	JIS A 5308の付属書３	圧縮強度の90%以上	試料となる砂の上部における溶液の色が標準色液の色より濃い場合。		○
			骨材中の粘土塊量の試験	JIS A 1137	細骨材：1.0%以下 粗骨材：0.25%以下	工事開始前、工事中１回／月以上および産地が変わった場合。		○
			骨材中の比重1.95の液体に浮く粒子の試験	JIS A 5308の付属書２	細骨材： コンクリートの外観が重要な場合0.5%以下 その他の場合1.0%以下 粗骨材： コンクリートの外観が重要な場合0.5%以下 その他の場合1.0%以下	工事開始前、工事中１回／年以上および産地が変わった場合。	スラグ細骨材、高炉スラグ粗骨材には適用しない。	○
			硫酸ナトリウムによる骨材の安定性試験	JIS A 1122 JIS A 5005	細骨材：10%以下 粗骨材：12%以下	工事開始前、工事中１回／年以上および産地が変わった場合。	寒冷地で凍結のおそれのある地点に適用する。	○
			セメントの物理試験	JIS R 5201	JIS R 5210（ポルトランドセメント） JIS R 5211（高炉セメント） JIS R 5212（シリカセメント） JIS R 5213（フライアッシュセメント）	工事開始前、工事中１回／月以上		○
			ポルトランドセメントの化学分析	JIS R 5202		工事開始前、工事中１回／月以上		○

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認
1 セメント・コンクリート（転圧コンクリート・コンクリートダム・覆工コンクリート・吹付けコンクリートを除く）	材料	その他	練混ぜ水の水質試験	土木学会規準 JSCE-B 101	懸濁物質の量：２g/ℓ以下 溶解性蒸発残留物の量：１g/ℓ 以下 塩化物イオン量：200ppm以下 水素イオン濃度：PH5.8～8.6 モルタルの圧縮強度比： 材齢１，７及び28日で90%以上 空気量の増分：±１%	工事開始前及び工事中１回／年以上および水質が変わった場合。	上水道を使用してる場合は試験に換え、上水道を使用してることを示す資料による確認を行う。	○
				回収水の場合： JIS A 5308 付属書９	塩化物イオン量：200ppm以下 セメントの凝結時間の差：始発は30分以内、終結は60分以内 モルタルの圧縮強度比：材齢７及び28日で90%以上	工事開始前及び工事中１回／年以上および水質が変わった場合。		○
	製造（プラント）	その他	計量設備の計量精度		水：±１%以内 セメント：±１%以内 骨　材：±３%以内 混和材：±２%以内 （高炉スラグ微粉末の場合は±１%以内） 混和剤：±３%以内	設計図書による。	レディミクストコンクリートの場合、印字記録により確認を行う。	○

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認
1 セメント・コンクリート（転圧コンクリート・コンクリートダム・覆工コンクリート・吹付けコンクリートを除く）	製造（プラント）	その他	ミキサの練混ぜ性能試験	バッチミキサの場合： JIS A 1119 JIS A 8603	コンクリートの練混ぜ量 公称容量の場合： コンクリート中のモルタル単位容積質量差：0.8%以下 コンクリート中の単位粗骨材量の差：５%以下 圧縮強度平均値からの差：7.5%以下 空気量平均値からの差：10%以下 スランプ平均値からの差：15%以下 公称容量の1/2の場合： コンクリート中のモルタル単位容積質量差：0.8%以下 コンクリート中の単位粗骨材量の差：５%以下	工事開始前及び工事中１回／年以上。	・小規模工種で１工種当りの総使用量が50㎥未満の場合は１工種１回以上。またレディーミクストコンクリート工場(JISマーク表示認定工場)の品質証明書等のみとすることができる。	○
				連続ミキサの場合： 土木学会規準 JSCE-I 502	コンクリート中のモルタル単位容積質量差：0.8%以下 コンクリート中の単位粗骨材量の差：5%以下 圧縮強度差：7.5%以下 空気量差：１%以下 スランプ差：３cm以下	工事開始前及び工事中１回／年以上。	・小規模工種で１工種当りの総使用量が50㎥未満の場合は１工種１回以上。またレディーミクストコンクリート工場(JISマーク表示認定工場)の品質証明書等のみとすることができる。	○
			細骨材の表面水率試験	JIS A 1111	設計図書による	２回／日以上	レディーミクストコンクリート以外の場合に適用する。	○
			粗骨材の表面水率試験	JIS A 1125	設計図書による	１回／日以上	レディーミクストコンクリート以外の場合に適用する。	○

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認
1 セメント・コンクリート（転圧コンクリート・コンクリートダム・覆工コンクリート・吹付けコンクリートを除く）	施工	必須	塩化物総量規制	「コンクリートの耐久性向上」	原則0.3kg／㎥以下	コンクリートの打設が午前と午後にまたがる場合は、午前に１回コンクリート打設前に行い、その試験結果が塩化物総量の規制値の1/2以下の場合は、午後の試験を省略できる。（１試験の測定回数は３回とする）試験の判定は３回の測定値の平均値。	・小規模工種で１工種当りの総使用量が50㎥未満の場合は１工種１回以上。またレディーミクストコンクリート工場(JISマーク表示認定工場)の品質証明書等のみとするこができる。 ・骨材に海砂を使用する場合は、「海砂の塩化物イオン含有率試験方法」(JSCE-C502,503)または設計図書の規定により行う。 ・用心鉄筋等を有さない無筋構造物の場合は省略できる。	
			スランプ試験	JIS A 1101	スランプ５cm以上８cm未満：許容差±1.5cm スランプ８cm以上18cm以下：許容差±2.5cm （コンクリート舗装の場合） スランプ2.5cm：許容差±1.0cm （道路橋床版の場合） スランプ８cmを標準とする。	・荷卸し時 １回／日または構造物の重要度と工事の規模に応じて20～150㎥ごとに１回、及び荷卸し時に品質変化が認められた時。ただし、道路橋鉄筋コンクリート床版にレディーミクストコンクリートを用いる場合は原則として全車測定を行う。 ・道路橋床版の場合、全車試験を行うが、スランプ試験の結果が安定し良好な場合はその後スランプ試験の頻度について監督職員と協議し低減することができる。	・小規模工種で１工種当りの総使用量が50㎥未満の場合は１工種１回以上。またレディーミクストコンクリート工場(JISマーク表示認定工場)の品質証明書等のみとするこができる。	
			コンクリートの圧縮強度試験	JIS A 1108	１回の試験結果は指定した呼び強度の85%以上であること。 ３回の試験結果の平均値は呼び強度以上であること。	・荷卸し時 １回／日または構造物の重要度と工事の規模に応じて20～150㎥ごとに１回。	・小規模工種で１工種当りの総使用量が50㎥未満の場合は１工種１回以上。またレディーミクストコンクリート工場(JISマーク表示認定工場)の品質証明書等のみとするこができる。	

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認
1 セメント・コンクリート（転圧コンクリート・コンクリートダム・覆工コンクリート・吹付けコンクリートを除く）	施工	必須	空気量測定	JIS A 1116 JIS A 1118 JIS A 1128	±1.5%（許容差）	・荷卸し時 １回／日または構造物の重要度と工事の規模に応じて20～150㎥ごとに１回、及び荷卸し時に品質変化が認められた時。	・小規模工種で１工種当りの総使用量が50㎥未満の場合は１工種１回以上。またレディーミクストコンクリート工場(JISマーク表示認定工場)の品質証明書等のみとするこができる。	
		その他	コンクリートの曲げ強度試験	JIS A 1106	１回の試験結果は指定した呼び強度の85%以上であること。 ３回の試験結果の平均値は指定した呼び強度以上であること。	コンクリート舗装の場合に適用し、打設日１日につき２回（午前・午後）の割りで行う。なおテストピースは打設場所で採取し、１回につき原則として３個とする。	・小規模工種で１工種当りの総使用量が50㎥未満の場合は１工種１回以上。またレディーミクストコンクリート工場(JISマーク表示認定工場)の品質証明書等のみとするこができる。 コンクリート舗装の場合には、曲げ強度試験を適用する。	
			コアーによる強度試験	JIS A 1107	設計図書による。	品質に異常が認められた場合に行う。		
			コンクリートの洗い分析試験	JIS A 1112	設計図書による。	品質に異常が認められた場合に行う。		
	施工後試験	必須	ひび割れ調査	スケールによる測定	0.2㎜	本数 総延長 最大ひび割れ幅等	高さが、５m以上の鉄筋コンクリート擁壁（ただし、プレキャスト製品は除く。）、内空断面積が２５㎡以上の鉄筋コンクリートカルバート類、橋梁上･下部工（ただしいずれの工種についてもＰＣは除く。）および高さが３m以上の堰･水門・樋門を対象とし構造物躯体の地盤や他の構造物との接触面を除く全表面とする。 フーチング･底版等で竣工時に地中・水中にある部位については竣工前に調査する。	

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認
1 セメント・コンクリート（転圧コンクリート・コンクリートダム・覆工コンクリート・吹付けコンクリートを除く）	施工後試験	必須	テストハンマーによる強度推定調査	JSCE-G 504	設計基準強度	鉄筋コンクリート擁壁およびカルバート類、トンネルについては目地間（ただし、100mを超えるトンネルでは、100ｍを超えた個所以降は、30m程度に１箇所）で行う。その他の構造物については強度が同じブロックを１構造物の単位とし、各単位につき３ヵ所の調査を実施。また、調査の結果、平均値が設計基準強度を下回った場合と、１回の試験結果が設計基準強度の85%以下となった場合は、その個所の周辺において、再調査を５ヵ所実施。 材齢28日～91日の間に試験を行う。	高さが、５ｍ以上の鉄筋コンクリート擁壁、内空断面積が２５㎡以上の鉄筋コンクリートカルバート類、橋梁上･下部工、トンネル及び高さが３ｍ以上の堰･水門・樋門を対象。（ただし、いずれの工種についても、プレキャスト製品およびプレストレストコンクリートは対象としない。）また、再調査の平均強度が、所定の強度を得られない場合、もしくは､1ヵ所の強度が設計強度の85%を下回った場合は、コアによる強度試験を行う。工期等により、基準期間内に調査を行えない場合は、監督職員と協議するものとする。	
		その他	コアによる強度試験	JIS A 1107	設計強度基準	所定の強度を得られない個所付近において、原位置のコアを採取。	コア採取位置、供試体の抜き取り寸法等の決定に際しては、設置された鉄筋を損傷させないよう十分な検討を行う。圧縮強度試験の平均強度が所定の強度を得られない場合、もしくは、１ヵ所の強度が設計強度の85%を下回った場合は、監督職員と協議するものとする。	

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認
２ 既 成 杭 工	材 料	必 須	外観検査（鋼管杭･コンクリート杭・H鋼杭）	目視	目視により使用上有害な欠陥（鋼管杭は変形など､コンクリート杭はひび割れや損傷など）がないこと。	設計図書による。		○
	施 工	必 須	外観検査（鋼管杭）	JIS A 5525	外径700㎜未満：許容値２㎜以下 外径700㎜以上1016㎜以下：許容値３㎜以下 外径1016㎜を超え2000㎜以下：許容値４㎜以下		・外径700㎜未満： 上ぐいと下ぐいの外周長の差で表し、その差を２㎜×π以下とする。 ・外径700㎜以上1016㎜以下： 上ぐいと下ぐいの外周長の差で表し、その差を３㎜×π以下とする。 ・外径1016㎜を超え2000㎜以下： 上ぐいと下ぐいの外周長の差で表し、その差を４㎜×π以下とする。	

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	シケン成績表等による確認
２ 既 成 杭 工	施 工	必 須	鋼管杭･コンクリート杭・Ｈ鋼杭の現場溶接浸透探傷試験 （溶剤除去性染色浸透探傷試験）	JIS Z 2343	われ及び有害な欠陥が無いこと。	原則として全溶接箇所で行う。 但し、施工方法や施工順序等から全数量の実施が困難な場合は監督員との協議により、現場状況に応じた数量とすることができる。なお、全溶接箇所の10%以上は、JIS Z 2343により定められた認定技術者が行うものとする。 試験箇所は杭の全周とする。		
			鋼管杭･Ｈ鋼杭の現場溶接放射線透過試験	JIS Z 3104	JIS Z 3104の３類以上	原則として溶接20箇所毎に１箇所とするが、施工方法や施工順序等から実施が困難な場合は現場状況に応じた数量とする。なお、対象箇所では鋼管杭を４方向から透過し、その撮影長は30cm／１方向とする。(20箇所毎に１箇所とは、溶接を20箇所施工した毎にその20箇所から任意の１箇所を試験することである。)		
		その 他	鋼管杭の現場溶接 超音波探傷試験	JIS Z 3060	JIS Z 3060の３類以上	原則として溶接20箇所毎に１箇所とするが、施工方法や施工順序等から実施が困難な場合は現場状況に応じた数量とする。なお、対象箇所では鋼管杭を４方向から探傷し、その探傷長は30cm／１方向とする。(20箇所毎に１箇所とは、溶接を20箇所施工した毎にその20箇所から任意の１箇所を試験することである。)	中堀工法等で、放射線透過試験が不可能な場合は、放射線透過試験に替えて超音波探傷試験とすることができる。	
			鋼管杭･コンクリート杭 （根固め） 水セメント比試験	比重の測定	設計図書による。 又、設計図書に記載されていない場合は60%～70%とする。	試料の採取回数は一般に単杭では30本に１回、継杭では20本に１回とし、採取本数は１回につき３本とする。		
			鋼管杭･コンクリート杭 （根固め） セメントミルクの圧縮強度試験	セメントミルク工法に用いる根固め液及びくい周固定液の圧縮強度試験 JIS A 1108	設計図書による。	供試体の採取回数は一般に単杭では30本に１回、継杭では20本に１回とし、採取本数は１回につき３本とすることが多い。尚、供試体はセメントミルクの供試体の作成方法に従って作成したφ５×10cmの円柱供試体によって求めるものとする。	参考値：19.6Mpa	

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認
３ 下 層 路 盤	材 料	必 須	修正ＣＢＲ試験	舗装試験法便覧 2-3-1	粒状路盤： 修正CBR20%以上(クラッシャラン鉄鋼スラグは修正ＣＢＲ30%以上)アスファルトコンクリート再生骨材を含む再生クラッシャランを用いる場合で、上層路盤、基層、表層の合計厚が次に示す数値より小さい場合は、30%以上とする。 北海道地方・・20cm 東北地方・・・30cm その他の地方 ・・・40cm	・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前	・中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が10,000 ㎡あるいは使用する基層及び表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。 ・小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、次のいずれかに該当するものをいう。 ①施工面積で2,000 ㎡以上10,000 ㎡未満 ②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500t以上、3,000t未満(コンクリートでは400㎥以上1,000㎥未満)	
			骨材のふるい分け試験	JIS A 1102	JIS A 5001 表２参照	・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前		○

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認
３ 下 層 路 盤	材 料	必 須	土の液性限界・塑性限界試験	JIS A 1205	塑性指数ＰＩ：６以下	・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前	・但し、鉄鋼スラグには適用しない。 ・中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が10,000㎡あるいは使用する基層及び表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。 ・小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、次のいずれかに該当するものをいう。 ①施工面積で2,000㎡以上10,000㎡未満 ②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500t以上3,000t未満（コンクリートでは400㎥以上1,000㎥未満）	○

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認
3 下 層 路 盤	材 料	必 須	鉄鋼スラグの水浸膨張性試験	舗装試験法便覧 2-3-4	1.5%以下	・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前	・ＣＳ：クラッシャラン鉄鋼スラグに適用する。 ・中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が10,000㎡あるいは使用する基層及び表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。 ・小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、次のいずれかに該当するものをいう。 ①施工面積で2,000㎡以上10,000㎡未満 ②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500t以上3,000t未満（コンクリートでは400㎥以上1,000㎥未満）	○

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認
3 下 層 路 盤	材 料	必 須	道路用スラグの呈色判定試験	JIS A 5015	呈色なし	・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前	・中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が10,000㎡あるいは使用する基層及び表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。 ・小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、次のいずれかに該当するものをいう。 ①施工面積で2,000㎡以上10,000㎡未満 ②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500t以上3,000t未満（コンクリートでは400㎥以上1,000㎥未満）	○

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認
3 下 層 路 盤	材 料	その 他	粗骨材のすりへり試験	JIS A 1121	再生クラシャランに用いるセメントコンクリート再生骨材は、すり減り量が50%以下とする。	・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前	・再生クラッシャランに適用する。 ・中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が10,000㎡あるいは使用する基層及び表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。 ・小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、次のいずれかに該当するものをいう。 ①施工面積で2,000㎡以上10,000㎡未満 ②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500t以上3,000t未満（コンクリートでは400㎥以上1,000㎥未満）	○

工種	種別	試験区分	試　験　項　目	試　験　方　法	規　格　値	試　験　基　準	摘　　要	試験成績表等による確認
３ 下 層 路 盤	施 工	必 須	現場密度の測定	舗装試験法便覧 2-5-3	最大乾燥密度の93%以上 X_{10}　95%以上 X_6　96%以上 X_3　97%以上	・中規模以上の工事：定期的又は随時（1,000㎡につき１個）。 ・小規模以下の工事：異常が認められたとき。	・締固め度は、10個の測定値の平均値X_{10}が規格値を満足しなければならない。また、10個の測定値が得がたい場合は３個の測定値の平均値X_3が規格値を満足していなければならないが、X_3が規格値をはずれた場合は、さらに３個のデータを加えた平均値X_6が規格値を満足していればよい。 ・中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が10,000㎡あるいは使用する基層及び表層用混合物の総使用量が3,000t以の場合が該当する。 ・小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、次のいずれかに該当するものをいう。 ①施工面積で2,000㎡以上10,000㎡未満 ②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500t以上3,000t未満（コンクリートでは400㎥以上1,000㎥未満）	

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認
３下層路盤	施工	必須	プルーフローリング	舗装試験法便覧 1-7-4		・中規模以上の工事：随時	・確認試験である。 ・但し、荷重車については、施工時に用いた転圧機械と同等以上の締固効果を持つローラやトラック等を用いるものとする。 ・中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が10,000㎡あるいは使用する基層及び表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。	
		その他	平板載荷試験	JIS A 1215		1,000㎡につき２回の割で行う。	・確認試験である。 ・セメントコンクリートの路盤に適用する。	
			骨材のふるい分け試験	JIS A 1102		・中規模以上の工事：異常が認められたとき。	・中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、基層及び表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。	
			土の液性限界・塑性限界試験	JIS A 1205	塑性指数ＰＩ：６以下	・中規模以上の工事：異常が認められたとき。	・中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、基層及び表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。	
			含水比試験	JIS A 1203	設計図書による。	・中規模以上の工事：異常が認められたとき。	・確認試験である。 ・中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が10,000㎡あるいは使用する基層及び表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。	

工種	種別	試験区分	試　験　項　目	試　験　方　法	規　格　値	試　　験　　基　　準	摘　　要	試験成績表等による確認
４ 上 層 路 盤	材 料	必 須	修正ＣＢＲ試験	舗装試験法便覧 2-3-1	修正ＣＢＲ 80%以上 アスファルトコンクリート再生骨材含む場合90%以上 40℃で行った場合80%以上	・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前	・中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が10,000㎡あるいは使用する基層及び表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。 ・小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、次のいずれかに該当するものをいう。 ①施工面積で2,000㎡以上10,000㎡未満 ②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500t以上3,000t未満（コンクリートでは400㎥以上1,000㎥未満）	

工種	種別	試験区分	試　験　項　目	試　験　方　法	規　格　値	試　　験　　基　　準	摘　　要	試験成績表等による確認
４ 上 層 路 盤	材 料	必 須	鉄鋼スラグの修正ＣＢＲ試験	舗装試験法便覧 2-3-1	修正ＣＢＲ80%以上	・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前	・MS：粒度調整鉄鋼スラグ及びHMS：水硬性粒度調整スラグに適用する。 ・中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が10,000㎡あるいは使用する基層及び表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。 ・小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、次のいずれかに該当するものをいう。 ①施工面積で2,000㎡以上10,000㎡未満 ②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500t以上3,000t未満（コンクリートでは400㎥以上1,000㎥未満）	

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認
4 上 層 路 盤	材 料	必 須	骨材のふるい分け試験	JIS A 1102	JIS A 5001 表２参照	・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前	・中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が10,000㎡あるいは使用する基層及び表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。 ・小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、次のいずれかに該当するものをいう。 ①施工面積で2,000㎡以上10,000㎡未満 ②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500t以上3,000t未満（コンクリートでは400㎥以上1,000㎥未満）	○

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認
４ 上 層 路 盤	材 料	必 須	土の液性限界・塑性限界試験	JIS A 1205	塑性指数ＰＩ：４以下	・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前	・但し、鉄鋼スラグには適用しない。 ・中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が10,000㎡あるいは使用する基層及び表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。 ・小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、次のいずれかに該当するものをいう。 ①施工面積で2,000㎡以上10,000㎡未満 ②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500t以上3,000t未満（コンクリートでは400㎥以上1,000㎥未満）	○

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認
4 上 層 路 盤	材 料	必 須	鉄鋼スラグの呈色判定試験	JIS A 5015 舗装試験法便覧 2-3-2	呈色なし	・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前	・MS：粒度調整鉄鋼スラグ及びHMS：水硬性粒度調整スラグに適用する。 ・中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が10,000㎡あるいは使用する基層及び表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。 ・小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、次のいずれかに該当するものをいう。 ①施工面積で2,000㎡以上10,000㎡未満 ②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500t以上3,000t未満（コンクリートでは400㎥以上1,000㎥未満）	○

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認
4 上 層 路 盤	材 料	必 須	鉄鋼スラグの水浸膨張性試験	舗装試験法便覧 2-3-4	1.5%以下	・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前	・MS：粒度調整鉄鋼スラグ及びHMS：水硬性粒度調整スラグに適用する。 ・中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が10,000㎡あるいは使用する基層及び表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。 ・小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、次のいずれかに該当するものをいう。 ①施工面積で2,000㎡以上10,000㎡未満 ②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500t以上3,000t未満（コンクリートでは400㎥以上1,000㎥未満）	○

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認
4 上 層 路 盤	材 料	必 須	鉄鋼スラグの一軸圧縮試験	舗装試験法便覧 2-3-3	1.2Mpa以上（14日）	・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前	・HMS：水硬性粒度調整スラグに適用する。 ・中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が10,000㎡あるいは使用する基層及び表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。 ・小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、次のいずれかに該当するものをいう。 ①施工面積で2,000㎡以上10,000㎡未満 ②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500t以上3,000t未満（コンクリートでは400㎥以上1,000㎥未満）	○

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認
4 上 層 路 盤	材 料	必 須	鉄鋼スラグの単位容積質量試験	舗装試験法便覧 4-9-5	1.50 kg /L 以上	・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前	・MS：粒度調整鉄鋼スラグ及びHMS：水硬性粒度調整スラグに適用する。 ・中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が10,000㎡あるいは使用する基層及び表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。 ・小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、次のいずれかに該当するものをいう。 ①施工面積で2,000㎡以上10,000㎡未満 ②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500t以上3,000t未満（コンクリートでは400㎥以上1,000㎥未満）	○

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認
4 上 層 路 盤	材 料	その 他	粗骨材のすりへり試験	JIS A 1121	50%以下	・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前	・粒度調整及びセメントコンクリート再生材を使用した再生粒度調整に適用する。 ・中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が10,000㎡あるいは使用する基層及び表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。 ・小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、次のいずれかに該当するものをいう。 ①施工面積で2,000㎡以上10,000㎡未満 ②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500t以上3,000t未満（コンクリートでは400㎥以上1,000㎥未満）	○

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認
4 上 層 路 盤	材 料	その 他	硫酸ナトリウムによる骨材の安定性試験	JIS A 1122	20%以下	・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前	・中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が10,000㎡あるいは使用する基層及び表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。 ・小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、次のいずれかに該当するものをいう。 ①施工面積で2,000㎡以上10,000㎡未満 ②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500t以上3,000t未満（コンクリートでは400㎥以上1,000㎥未満）	○

工種	種別	試験区分	試　験　項　目	試　験　方　法	規　格　値	試　　験　　基　　準	摘　　要	試験成績表等による確認
４ 上 層 路 盤	施 工	必 須	現場密度の測定	舗装試験法便覧 2-5-3	最大乾燥密度の93%以上 X_{10}　95%以上 X_6　95.5%以上 X_3　96.5%以上	・中規模以上の工事：定期的又は随時（1,000㎡につき１個） ・小規模以下の工事：異常の認められたとき	・締固め度及び粒度は、10個の測定値の平均値X_{10}が規格値を満足しなければならない。また、10個の測定値が得がたい場合は３個の測定値の平均値X_3が規格値を満足していなければならないが、X_3が規格値をはずれた場合は、さらに３個のデータを加えた平均値X_6が規格値を満足していればよい。 ・中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が10,000㎡あるいは使用する基層及び表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。 ・小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、次のいずれかに該当するものをいう。 ①施工面積で2,000㎡以上10,000㎡未満 ②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500t以上3,000t未満（コンクリートでは400㎥以上1,000㎥未満）	

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認
４ 上 層 路 盤	施 工	必 須	粒度（2.36㎜フルイ）	舗装試験法便覧 3-4-3	2.36㎜ふるい：±15%以内	・中規模以上の工事： 定期的又は随時（１～２回／日） ・小規模以下の工事：異常の認められたとき	・中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が10,000㎡あるいは使用する基層及び表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。 ・小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、次のいずれかに該当するものをいう。 ①施工面積で2,000㎡以上10,000㎡未満 ②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500t以上3,000t未満（コンクリートでは400㎥以上1,000㎥未満）	
			粒度（75μｍフルイ）	舗装試験法便覧 3-4-3	75μｍふるい：±６％以内	・中規模以上の工事： 定期的又は随時（１～２回／日） ・小規模以下の工事：異常の認められたとき		

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認
４上層路盤	施工	その他	平板載荷試験	JIS A 1215		1,000㎡につき２回の割で行う。	セメントコンクリートの路盤に適用する。 平板載荷試験の支持力係数の目安（以上） 路　　床　13（kgf/㎠） 下層路盤　16（　〃　） 上層路盤　24（　〃　）	
			土の液性限界・塑性限界試験	JIS A 1205	塑性指数ＰＩ：４以下	観察により異常が認められたとき。		
			含水比試験	JIS A 1203	設計図書による。	観察により異常が認められたとき。		
５アスファルト安定処理路盤			アスファルト舗装に準じる				・安定処理材に適用する。 ・中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が10,000㎡あるいは使用する基層及び表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。 ・小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、次のいずれかに該当するものをいう。 ①施工面積で2,000㎡以上10,000㎡未満 ②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500t以上3,000t未満（コンクリートでは400㎥以上1,000㎥未満）	
６セメント安定処理路盤	材料	必須	一軸圧縮試験	舗装試験法便覧 2-4-3	下層路盤：一軸圧縮強さ［７日間］ 0.98Mpa 上層路盤：一軸圧縮強さ［７日間］ 2.9Mpa（アスファルト舗装）、2.0Mpa（セメントコンクリート舗装）。	・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前		

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認
６セメント安定処理路盤	材料	必須	骨材の修正ＣＢＲ試験	舗装試験法便覧 2-3-1	下層路盤：10%以上 上層路盤：20%以上	・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前	・アスファルト舗装に適用する。 ・中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が10,000㎡あるいは使用する基層及び表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。 ・小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、次のいずれかに該当するものをいう。 ①施工面積で2,000㎡以上10,000㎡未満 ②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500t以上3,000t未満（コンクリートでは400㎥以上1,000㎥未満）	
			土の液性限界・塑性限界試験	JIS A 1205 舗装試験法便覧 1-3-5、1-3-6	下層路盤 塑性指数PI:9以下 上層路盤 塑性指数PI:9以下	・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前		

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認
６セメント安定処理路盤	施工	必須	粒度（2.36㎜フルイ）	JIS A 1102	2.36㎜ふるい：±15%以内	・中規模以上の工事： 定期的又は随時（１～２回／日） ・小規模以下の工事：異常の認められたとき	・中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が10,000㎡あるいは使用する基層及び表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。 ・小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、次のいずれかに該当するものをいう。 ①施工面積で2,000㎡以上10,000㎡未満 ②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500t以上3,000t未満（コンクリートでは400㎥以上1,000㎥未満）	
			粒度（75μｍフルイ）	JIS A 1102	75μｍふるい：±６%以内	・中規模以上の工事： 定期的又は随時（１～２回／日） ・小規模以下の工事：異常の認められたとき		

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認
６セメント安定処理路盤	施工	必須	現場密度の測定	舗装試験法便覧 2-5-3	最大乾燥密度の93%以上 X_{10}　95%以上 X_6　95.5%以上 X_3　96.5%以上	・中規模以上の工事：定期的又は随時（1,000㎡につき１個） ・小規模以下の工事：異常の認められたとき	・締固め度は、10個の測定値の平均値X_{10}が規格値を満足しなければならない。また、10個の測定値が得がたい場合は３個の測定値の平均値X_3が規格値を満足していなければならないが、　X_3が規格値をはずれた場合は、さらに３個のデータを加えた平均値X_6が規格値を満足していればよい。 ・中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が10,000㎡あるいは使用する基層及び表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。 ・小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、次のいずれかに該当するものをいう。 ①施工面積で2,000㎡以上10,000㎡未満 ②使用する基層および表層用混合物の総使用量が500t以上3,000t未満（コンクリートでは400㎥以上1,000㎥未満）	
		その他	含水比試験	JIS A 1203	設計図書による。	観察により異常が認められたとき。		
			セメント量試験	舗装試験法便覧 2-5-4、2-5-5	±1.2%以内	・中規模以上の工事：異常が認められたとき。 （１～２回／日）	・中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が10,000㎡あるいは使用する基層及び表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。	

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認
7 アスファルト舗装	材料	必須	骨材のふるい分け試験	JIS A 1102	JIS A 5001　表２参照	・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前	・中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が10,000㎡あるいは使用する基層及び表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。 ・小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、次のいずれかに該当するものをいう。 ①施工面積で2,000㎡以上10,000㎡未満 ②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500t以上3,000t未満（コンクリートでは400㎥以上1,000㎥未満）	○
			骨材の密度及び吸水率試験	JIS A 1109 JIS A 1110	表層・基層 表乾密度 2.45 g/㎤以上 吸水率　3.0%以下	・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前		○

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認
7 アスファルト舗装	材料	必須	骨材中の粘土塊量の試験	JIS A 1137	粘土、粘土塊量:0.25%以下	・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前	・中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が10,000㎡あるいは使用する基層及び表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。 ・小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、次のいずれかに該当するものをいう。 ①施工面積で2,000㎡以上10,000㎡未満 ②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500t以上3,000t未満（コンクリートでは400㎥以上1,000㎥未満）	○
			粗骨材の形状試験	舗装試験法便覧 3-4-7	細長、あるいは偏平な石片：10%以下	・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前		○

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認
7 アスファルト舗装	材料	必須	フィラーの粒度試験	JIS A 5008	便覧 表3.3.17による。	・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前	・中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が10,000㎡あるいは使用する基層及び表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。 ・小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、次のいずれかに該当するものをいう。 ①施工面積で2,000㎡以上10,000㎡未満 ②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500t以上3,000t未満（コンクリートでは400㎥以上1,000㎥未満）	○
			フィラーの水分試験	JIS A 5008	１%以下	・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前		○

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認
7 アスファルト舗装	材料	その他	フィラーの塑性指数試験	JIS A 1205	４以下	・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前	・火成岩類を粉砕した石粉を用いる場合に適用する。 ・中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が10,000㎡あるいは使用する基層及び表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。 ・小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、次のいずれかに該当するものをいう。 ①施工面積で2,000㎡以上10,000㎡未満 ②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500t以上3,000t未満（コンクリートでは400㎥以上1,000㎥未満）	○
			フィラーのフロー試験	舗装試験法便覧 3-4-15	50%以下	・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前		○

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認
7 アスファルト舗装	材料	その他	フィラーの水浸膨張試験	舗装試験法便覧 3-4-12	４%以下	・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前	・火成岩類を粉砕した石粉を用いる場合に適用する。 ・中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が10,000㎡あるいは使用する基層及び表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。 ・小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、次のいずれかに該当するものをいう。 ①施工面積で2,000㎡以上10,000㎡未満 ②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500t以上3,000t未満（コンクリートでは400㎥以上1,000㎥未満）	○
			フィラーの剥離抵抗性試験	舗装試験法便覧 3-4-13	合格	・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前		○

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認
7 アスファルト舗装	材料	その他	製鋼スラグの水浸膨張性試験	舗装試験法便覧 3-4-17	水浸膨張比：2.0%以下	・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前	・中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が10,000㎡あるいは使用する基層及び表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。 ・小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、次のいずれかに該当するものをいう。 ①施工面積で2,000㎡以上10,000㎡未満 ②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500t以上3,000t未満（コンクリートでは400㎥以上1,000㎥未満）	○
			製鋼スラグの比重及び吸水率試験	JIS A 1110	SS 表乾密度：2.45g/㎤以上 吸水率：3.0%以下	・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前		○
			粗骨材のすりへり試験	JIS A 1121	すり減り量 砕石　：30%以下 ＣＳＳ：50%以下 ＳＳ　：30%以下	・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前		○
			硫酸ナトリウムによる骨材の安定性試験	JIS A 1122	損失量：12%以下	・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前		○

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認
7 アスファルト舗装	材料	その他	粗骨材中の軟石量試験	JIS A 1126	軟石量：５%以下	・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前	・中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が10,000㎡あるいは使用する基層及び表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。 ・小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、次のいずれかに該当するものをいう。 ①施工面積で2,000㎡以上10,000㎡未満 ②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500t以上3,000t未満（コンクリートでは400㎥以上1,000㎥未満）	○
			針入度試験	JIS K 2207	舗装施工便覧参照 ・舗装用石油アスファルト：　表3.3.1 ・改質アスファルト：表3.3.3 ・セミブローンアスファルト　：表3.3.4	・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前		○
			軟化点試験	JIS K 2207	舗装施工便覧参照 ・舗装用石油アスファルト　：　表3.3.1 ・改質アスファルト：表3.3.3	・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前		○
			伸度試験	JIS K 2207	舗装施工便覧参照 ・舗装用石油アスファルト　：　表3.3.1 ・改質アスファルト：表3.3.3	・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前		○

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認
7 アスファルト舗装	材料	その他	トルエン可溶分試験	JIS K 2207	舗装施工便覧参照 ・舗装用石油アスファルト ： 表3.3.1 ・セミブローンアスファルト ：表3.3.4	・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前	・中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が10,000㎡あるいは使用する基層及び表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。 ・小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、次のいずれかに該当するものをいう。 ①施工面積で2,000㎡以上10,000㎡未満 ②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500t以上3,000t未満（コンクリートでは400㎥以上1,000㎥未満）	○
			引火点試験	JIS K 2265	舗装施工便覧参照 ・舗装用石油アスファルト ： 表3.3.1 ・改質アスファルト：表3.3.3 ・セミブローンアスファルト ：表3.3.4	・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前		○
			薄膜加熱試験	JIS K 2207	舗装施工便覧参照 ・舗装用石油アスファルト： 表3.3.1 ・改質アスファルト：表3.3.3 ・セミブローンアスファルト ：表3.3.4	・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前		○
			蒸発後の針入度比試験	JIS K 2207	舗装施工便覧参照 ・舗装用石油アスファルト： 表3.3.1	・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前		○

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認
7 アスファルト舗装	材料	その他	密度試験	JIS K 2207	舗装施工便覧参照 ・舗装用石油アスファルト：　表3.3.1 ・改質アスファルト：表3.3.3 ・セミブローンアスファルト　：表3.3.4	・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前	・中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が10,000㎡あるいは使用する基層及び表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。 ・小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、次のいずれかに該当するものをいう。 ①施工面積で2,000㎡以上10,000㎡未満 ②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500t以上3,000t未満（コンクリートでは400㎥以上1,000㎥未満）	○
			高温動粘度試験	舗装試験法便覧 3-5-10	舗装施工便覧参照 ・セミブローンアスファルト　：表3.3.4	・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前		○
			60℃粘度試験	舗装試験法便覧 3-5-11	舗装施工便覧参照 ・改質アスファルト：表3.3.3 ・セミブローンアスファルト：表3.3.4	・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前		○
			タフネス・テナシティ試験	舗装試験法便覧 3-5-17	舗装施工便覧参照 ・改質アスファルト：表3.3.3	・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前		○

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認
7 アスファルト舗装	プラント	必須	粒度（2.36㎜フルイ）	舗装試験法便覧 3-4-3	2.36㎜ふるい：±12%以内基準粒度	・中規模以上の工事：定期的又は随時 ・小規模以下の工事：異常が認められたとき。 ・印字記録の場合：全数又は抽出・ふるい分け試験１～２回／日	・中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が10,000㎡あるいは使用する基層及び表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。 ・小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、次のいずれかに該当するものをいう。 ①施工面積で2,000㎡以上10,000㎡未満 ②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500t以上3,000t未満（コンクリートでは400㎥以上1,000㎥未満）	○
			粒度（75μmフルイ）	舗装試験法便覧 3-4-3	75μmふるい：±５%以内基準粒度	・中規模以上の工事：定期的又は随時 ・小規模以下の工事：異常が認められたとき。 ・印字記録の場合：全数又は抽出・ふるい分け試験１～２回／日		○
			アスファルト量抽出粒度分析試験	舗装試験法便覧 3-9-6	アスファルト量 −0.9%以内	・中規模以上の工事：定期的又は随時 ・小規模以下の工事：異常が認められたとき。 ・印字記録の場合：全数又は抽出・ふるい分け試験１～２回／日		○
			温度測定（アスファルト・骨材・混合物）	温度計による。	配合設計で決定した混合温度。	随時		○

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認
アスファルト舗装	舗設現場	必須	現場密度の測定	舗装試験法便覧 3-7-7	基準密度の94%以上 X_{10}　96%以上 X_6　96%以上 X_3　96.5%以上 歩道の基準密度については、設計図書による。	・中規模以上の工事：定期的又は随時（1,000㎡につき１個） ・小規模以下の工事：異常が認められたとき。	・但し、橋面舗装はコア採取しないでAs合材量（プラント出荷数量）と舗設面積及び厚さでの密度管理、または転圧回数による管理を行う。 ・中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が10,000㎡あるいは使用する基層及び表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。 ・小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、次のいずれかに該当するものをいう。 ①施工面積で2,000㎡以上10,000㎡未満 ②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500t以上3,000t未満（コンクリートでは400㎥以上1,000㎥未満）	
			温度測定（初期締固め前）	温度計による。	110℃以上	随時	測定値の記録は、１日４回（午前・午後各２回）。	
			外観検査（混合物）	目視		随時		
		その他	すべり抵抗試験	舗装試験法便覧 6-5	設計図書による	舗設車線毎200m毎に１回		

<table>
<tr><th>工種</th><th>種別</th><th>試験区分</th><th>試験項目</th><th>試験方法</th><th>規格値</th><th>試験基準</th><th>摘要</th><th>試験成績表等による確認</th></tr>
<tr><td rowspan="5">８
路床安定処理工</td><td rowspan="2">材料</td><td rowspan="2">必須</td><td>土の締固め試験</td><td>JIS A 1210</td><td>設計図書による。</td><td>当初及び土質の変化したとき。</td><td>監督職員との協議の上で、(再)転圧を行うものとする。</td><td></td></tr>
<tr><td>ＣＢＲ試験</td><td>舗装試験法便覧
1-6-1
舗装試験法便覧
1-6-2</td><td>設計図書による。</td><td>当初及び土質の変化したとき。</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">施工</td><td rowspan="3">必須</td><td rowspan="2">現場密度の測定</td><td>最大粒径≦53㎜：
JIS A 1214
JIS A 1210
A･B法
最大粒径＞53㎜：
舗装試験法便覧
1-7-2</td><td>最大乾燥密度の90%以上。</td><td>500㎡につき１回の割合で行う。但し、500㎡未満の工事は１工事当たり３回以上。</td><td>左記の規格値を満たしていても、規格値を著しく下回っている点が存在した場合は、監督職員との協議の上で、(再)転圧を行うものとする。</td><td></td></tr>
<tr><td>または、
RI計器を用いた盛土の締固め管理要領（案）</td><td>１管理単位の現場乾燥密度の平均値が最大乾燥密度の90%以上。
又は、設計図書による。</td><td>１日の１層あたりの施工面積を基準とする。
管理単位の面積は1,500㎡を標準とし、１日の施工面積が2,000㎡以上の場合、その施工面積を２管理単位以上に分割するものとする。１管理単位あたりの測定点数の目安を下表に示す。
<table><tr><td>面積（㎡）</td><td>0～500</td><td>500～1000</td><td>1000～2000</td></tr><tr><td>測定点数</td><td>５</td><td>10</td><td>15</td></tr></table></td><td>・最大粒径＜100㎜の場合に適用する。
・左記の規格値を満たしていても、規格値を著しく下回っている点が存在した場合は、監督職員との協議の上で、(再)転圧を行うものとする</td><td></td></tr>
<tr><td>プルーフローリング</td><td>舗装試験法便覧
1-7-4</td><td></td><td>路床仕上げ後、全幅、全区間で実施する。</td><td>・確認試験である。
・但し、荷重車については、施工時に用いた転圧機械と同等以上の締固効果を持つローラやトラック等を用いるものとする。</td><td></td></tr>
</table>

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認
８ 路床安定処理工	施工	その他	平板載荷試験	JIS A 1215		延長40mにつき１箇所の割で行う。	・確認試験である。 ・セメントコンクリートの路盤に適用する。	
			現場ＣＢＲ試験	JIS A 1222	設計図書による。	各車線ごとに延長40mにつき１回の割で行う。	・確認試験である。	
			含水比試験	JIS A 1203	設計図書による。	降雨後または含水比の変化が認められたとき。	・確認試験である。	
			たわみ量	舗装試験法便覧　7-2 （ベンゲルマンビーム）	設計図書による。	プルーフローリングでの不良箇所について実施	・確認試験である。	

<table>
<tr><th>工種</th><th>種別</th><th>試験区分</th><th>試験項目</th><th>試験方法</th><th>規格値</th><th>試験基準</th><th>摘要</th><th>試験成績表等による確認</th></tr>
<tr><td rowspan="4">９
表層安定処理工
（表層混合処理）</td><td>材料</td><td>その他</td><td>土の一軸圧縮試験</td><td>JIS A 1216</td><td>設計図書による。</td><td>当初及び土質の変化したとき。</td><td>配合を定めるための試験である。</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">施工</td><td rowspan="3">必須</td><td rowspan="2">現場密度の測定</td><td>JIS A 1214
JIS A 1210
A･B法</td><td>最大乾燥密度の90%以上。</td><td>500㎥につき１回の割合で行う。但し、500㎥未満の工事は１工事当たり３回以上。</td><td>左記の規格値を満たしていても、規格値を著しく下回っている点が存在した場合は、監督職員との協議の上で、（再）転圧を行うものとする。</td><td></td></tr>
<tr><td>または、
RI計器を用いた盛土の締固め管理要領（案）</td><td>１管理単位の現場乾燥密度の平均値が最大乾燥密度の90%以上。
又は、設計図書による。</td><td>１日の１層あたりの施工面積を基準とする。
管理単位の面積は1,500㎡を標準とし、１日の施工面積が2,000㎡以上の場合、その施工面積を２管理単位以上に分割するものとする。１管理単位あたりの測定点数の目安を下表に示す。
<table><tr><td>面積（㎡）</td><td>0～500</td><td>500～1000</td><td>1000～2000</td></tr><tr><td>測定点数</td><td>５</td><td>10</td><td>15</td></tr></table></td><td>・最大粒径＜100㎜の場合に適用する。
・左記の規格値を満たしていても、規格値を著しく下回っている点が存在した場合は、監督職員との協議の上で、（再）転圧を行うものとする</td><td></td></tr>
<tr><td></td><td>プルーフローリング</td><td>舗装試験法便覧
1-7-4</td><td>沈下が認められた場合は、その個所においてベンゲルマンビーム等によるたわみ量測定を行うものとする。</td><td>路床仕上げ後、全幅、全区間で実施する。</td><td>・確認試験である。
・但し、荷重車については、施工時に用いた転圧機械と同等以上の締固効果を持つローラやトラック等を用いるものとする。</td><td></td></tr>
</table>

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認
９ 表層安定処理工 (表層混合処理)	施工	その他	平板載荷試験	JIS A 1215		各車線ごとに延長40mにつき１回の割で行う。	・確認試験である。	
			現場ＣＢＲ試験	JIS A 1222	設計図書による。	各車線ごとに延長40mにつき１回の割でう。	・確認試験である。	
			含水比試験	JIS A 1203	設計図書による。	降雨後または含水比の変化が認められたとき。	・確認試験である。	
			たわみ量	舗装試験法便覧　7-2 (ベンゲルマンビーム)	設計図書による。	プルーフローリングでの不良箇所について実施	・確認試験である。	
10 固結工	施工	必須	土の一軸圧縮試験	JIS A 1216	①各供試体の試験結果は改良地盤設計強度の85%以上 ②１回の試験結果は改良地盤設計強度以上。なお１回の試験とは３個の供試体の試験値の平均値で表したもの	改良体500本未満は３本、500本以上は250本増えるごとに１本追加する。試験は１本の改良体について、上、中、下それぞれ１回、計３回とする。 但し、１本の改良体で設計強度を変えている場合は、各設計強度毎に３回とする。 現場の条件、規模等により上記によりがたい場合は監督職員の指示による。		

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認
11 河川土工	材料	必須	土の締固め試験	JIS A 1210	設計図書による。	当初及び土質の変化した時。	監督職員との協議の上で、（再）転圧を行うものとする。	
		その他	土の粒度試験	JIS A 1204	設計図書による。	当初及び土質の変化した時。		
			土粒子の密度試験	JIS A 1202	設計図書による。	当初及び土質の変化した時。		
			土の含水比試験	JIS A 1203	設計図書による。	当初及び土質の変化した時。		
			土の液性限界・塑性限界試験	JIS A 1205	設計図書による。	当初及び土質の変化した時。		
			土の一軸圧縮試験	JIS A 1216	設計図書による。	当初及び土質の変化した時。		
			土の三軸圧縮試験	土質試験の方法と解説	設計図書による。	必要に応じて。		
			土の圧密試験	JIS A 1217	設計図書による。	必要に応じて。		
			土のせん断試験	土質試験の方法と解説	設計図書による。	必要に応じて。		
			土の透水試験	JIS A 1218	設計図書による。	必要に応じて。		

<table>
<tr><th>工種</th><th>種別</th><th>試験区分</th><th>試　験　項　目</th><th>試　験　方　法</th><th>規　格　値</th><th>試　験　基　準</th><th>摘　　要</th><th>試験成績表等による確認</th></tr>
<tr><td rowspan="4">11
河川土工</td><td rowspan="4">施工</td><td rowspan="2">必須</td><td>現場密度の測定</td><td>最大粒径≦53㎜：
JIS A 1214
JIS A 1210 A･B法
最大粒径＞53㎜：
舗装試験法便覧
1-7-2</td><td>最大乾燥密度の85%以上。又は設計図書に示された値。</td><td>築提は、1,000㎡に１回の割合、または堤体延長20mに３回の割合の内、測定頻度の高い方で実施する。</td><td>・左記の規格値を満たしていても、規格値を著しく下回っている点が存在した場合は、監督職員と協議の上で、（再）転圧を行うものとする。</td><td></td></tr>
<tr><td>または、
「RI計器を用いた盛土の締固め管理要領（案）」による。</td><td>１管理単位の現場乾燥密度の平均値が最大乾燥密度の90%以上。又は、設計図書による。</td><td>築提は、１日の１層あたりの施工面積を基準とする。管理単位の面積は1,500㎡を標準とし、１日の施工面積が2,000㎡以上の場合、その施工面積を２管理単位以上に分割するものとする。１管理単位あたりの測定点数の目安を下表に示す。
<table><tr><td>面　積
（㎡）</td><td>０～
500</td><td>500～
1000</td><td>1000～
2000</td></tr><tr><td>測　定
点　数</td><td>５</td><td>10</td><td>15</td></tr></table></td><td>・最大粒径＜100㎜の場合に適用する。
・左記の規格値を満たしていても、規格値を著しく下回っている点が存在した場合は、監督職員と協議の上で、（再）転圧を行うものとする。</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">その他</td><td>土の含水比試験</td><td>JIS A 1203</td><td>設計図書による。</td><td>含水比の変化が認められたとき。</td><td>確認試験である。</td><td></td></tr>
<tr><td>コーン指数の測定</td><td>舗装試験法便覧
1-2-1</td><td>設計図書による。</td><td>トラフィカビリティが悪いとき。</td><td>確認試験である。</td><td></td></tr>
</table>

工種	種別	試験区分	試　験　項　目	試　験　方　法	規　格　値	試　験　基　準	摘　　要	試験成績表等による確認
12 道 路 土 工	材 料	必 須	土の締固め試験	JIS A 1210	設計図書による。	当初及び土質の変化した時（材料が岩砕の場合は除く）。但し、法面、路肩部の土量は除く。	監督職員との協議の上で、（再）転圧を行うものとする。	
			ＣＢＲ試験 （路床）	JIS A 1211	設計図書による。	当初及び土質の変化した時。 （材料が岩砕の場合は除く）。		
		その 他	土の粒度試験	JIS A 1204	設計図書による。	当初及び土質の変化した時。		
			土粒子の密度試験	JIS A 1202	設計図書による。	当初及び土質の変化した時。		
			土の含水比試験	JIS A 1203	設計図書による。	・路体：当初及び土質の変化した時。 ・路床：含水比の変化が認められた時。		
			土の液性限界・塑性限界試験	JIS A 1205	設計図書による。	当初及び土質の変化した時。		
			土の一軸圧縮試験	JIS A 1216	設計図書による。	当初及び土質の変化した時。		
			土の三軸圧縮試験	土質試験の方法と解説	設計図書による。	当初及び土質の変化した時。		
			土の圧密試験	JIS A 1217	設計図書による。	当初及び土質の変化した時。		

<table>
<tr><th>工種</th><th>種別</th><th>試験区分</th><th>試　験　項　目</th><th>試　験　方　法</th><th>規　格　値</th><th>試　験　基　準</th><th>摘　　要</th><th>試験成績表等による確認</th></tr>
<tr><td rowspan="4">12
道路土工</td><td rowspan="2">材料</td><td rowspan="2">その他</td><td>土のせん断試験</td><td>土質試験の方法と解説</td><td>設計図書による。</td><td>当初及び土質の変化した時。</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>土の透水試験</td><td>JIS A 1218</td><td>設計図書による。</td><td>当初及び土質の変化した時。</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">施工</td><td rowspan="3">必須</td><td rowspan="2">現場密度の測定</td><td>最大粒径≦53㎜：
JIS A 1214
JIS A 1210 A･B法
最大粒径＞53㎜：
舗装試験法便覧
1-7-2</td><td>・路体：最大乾燥密度の85%以上。
・路床：最大乾燥密度の90%以上。
その他、設計図書による。</td><td>路体の場合、1,000㎥につき１回の割合で行う。但し、5,000㎥未満の工事は、１工事当たり３回以上。
路床の場合、500㎥につき１回の割合で行う。但し、500㎥未満の工事は１工事当たり３回以上。</td><td>左記の規格値を満たしていても、規格値を著しく下回っている点が存在した場合は、監督職員と協議の上、（再）転圧を行うものとする。</td><td></td></tr>
<tr><td>または、
「RI計器を用いた盛土の締固め管理要領（案）」</td><td>路体・路床とも１管理単位の現場乾燥密度の平均値が最大乾燥密度の90%以上。
又は、設計図書による。</td><td>路体・路床とも、１日の１層あたりの施工面積を基準とする。管理単位の面積は1,500㎡を基準とし、１日の施工面積が2,000㎡以上の場合、その施工面積を２管理単位以上に分割するものとする。１管理単位あたりの測定点数の目安を下表に示す。
<table><tr><td>面　積
（㎡）</td><td>0～
500</td><td>500～
1000</td><td>1000～
2000</td></tr><tr><td>測　定
点　数</td><td>5</td><td>10</td><td>15</td></tr></table></td><td>・最大粒径＜100㎜の場合に適用する。
・左記の規格値を満たしていても、規格値を著しく下回っている点が存在した場合は、監督職員と協議の上で、(再)転圧を行うものとする。</td><td></td></tr>
<tr><td>プルーフローリング</td><td>舗装試験法便覧
1-7-4</td><td></td><td>路床仕上げ後全幅、全区間について実施する。但し、現道打換工事、仮設用道路維持工事は除く。</td><td>・確認試験である。
・但し、荷重車については、施工時に用いた転圧機械と同等以上の締固効果を持つローラやトラック等を用いるものとする。</td><td></td></tr>
</table>

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認
12 道路土工	施工	その他	平板載荷試験	JIS A 1215		各車線ごとに延長40mについて１箇所の割で行う。	・確認試験である。 ・セメントコンクリートの路盤に適用する。	
			現場ＣＢＲ試験	JIS A 1222	設計図書による。	各車線ごとに延長40mについて１回の割で行う。	・確認試験である。	
			含水比試験	JIS A 1203	設計図書による。	降雨後又は、含水比の変化が認められたとき。	・確認試験である。	
			コーン指数の測定	舗装試験便覧 1-2-1	設計図書による。	トラフィカビリティが悪いとき。	・確認試験である。	
			たわみ量	舗装試験法便覧 7-2 （ベンゲルマンビーム）	設計図書による。	プルーフローリングでの不良箇所について実施	・確認試験である。	

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認
13 捨石工	施工	必須	岩石の見掛比重	JIS A 5006	設計図書による。	原則として産地毎に当初及び岩質の変化時。	・500㎥以下は監督職員の承諾を得て省略できる。 ・参考値： ・硬石:約2.7～2.5g/㎤ ・準硬石:約2.5～２g/㎤ ・軟石:約２g/㎥未満	○
			岩石の吸水率	JIS A 5006	設計図書による。	原則として産地毎に当初及び岩質の変化時。	・500㎥以下は監督職員の承諾を得て省略できる。 ・参考値： ・硬石:５%未満 ・準硬石:5%以上15%未満 ・軟石:15%以上	○
			岩石の圧縮強さ	JIS A 5006	設計図書による。	原則として産地毎に当初及び岩質の変化時。	・500㎥以下は監督職員の承諾を得て省略できる。 ・参考値： ・硬石：4903N/㎠以上 ・準硬石：80.66N/㎠以上4903N/㎠未満 ・軟石：980.66N/㎠未満	○
		その他	岩石の形状	JIS A 5006	うすっぺらなもの、細長いものであってはならない。	5,000㎥につき１回の割で行う。 但し、5,000㎥以下のものは１工事２回実施する。	500㎥以下は監督職員の承諾を得て省略できる。	○

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認
14 排水性舗装工	材料	必須	骨材のふるい分け試験	JIS A 1102	「排水性舗装技術指針（案）」3-4による。	・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前	・中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が10,000㎡あるいは使用する基層及び表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。 ・小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、次のいずれかに該当するものをいう。 ①施工面積で2,000㎡以上10,000㎡未満 ②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500t以上3,000t未満（コンクリートでは400㎥以上1,000㎥未満）	○
			骨材の密度及び吸水率試験	JIS A 1109 JIS A 1110	砕石・玉砕、製鋼スラグ（SS） 表乾比重：2.45以上 吸 水 率：3.0%以下	・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前		○
			骨材中の粘土塊量の試験	JIS A 1137	粘土、粘土塊量：0.25%以下	・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前		○
			粗骨材の形状試験	舗装試験法便覧 3-4-7	細長、あるいは偏平な石片：10%以下	・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前		○
			フィラーの粒度試験	JIS A 5008	「排水性舗装技術指針（案）」3-5による。	・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前		○
			フィラーの水分試験	JIS A 5008	１%以下	・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前		○

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認
14 排水性舗装工	材料	その他	フィラーの塑性指数試験	JIS A 1205	４以下	・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前	・中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が10,000㎡あるいは使用する基層及び表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。 ・小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、次のいずれかに該当するものをいう。 ①施工面積で2,000㎡以上10,000㎡未満 ②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500t以上3,000t未満（コンクリートでは400㎥以上1,000㎥未満）	○
			フィラーのフロー試験	舗装試験法便覧 3-4-15	50%以下	・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前		○
			製鋼スラグの水浸膨張性試験	舗装試験法便覧 3-4-17	水浸膨張比：1.5%以下	・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前		○
			粗骨材のすりへり試験	JIS A 1121	砕石・玉砕、製鋼スラグ（SS）：30%以下	・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前		○
			硫酸ナトリウムによる骨材の安定性試験	JIS A 1122	損失量：12%以下	・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前		○

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認
14 排水性舗装工	材料	その他	粗骨材中の軟石量試験	JIS A 1126	軟石量：５%以下	・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前	・中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が10,000㎡あるいは使用する基層及び表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。 ・小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、次のいずれかに該当するものをいう。 ①施工面積で2,000㎡以上10,000㎡未満 ②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500t以上3,000t未満（コンクリートでは400㎥以上1,000㎥未満）	○
			針入度試験	JIS K 2207	40（1/10㎜）以上	・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前		○
			軟化点試験	JIS K 2207	80.0℃以上	・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前		○
			伸度試験	JIS K 2207	50cm以上（15℃）	・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前		○
			引火点試験	JIS K 2265	260℃以上	・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前		○

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認
14 排水性舗装工	材料	その他	薄膜加熱質量変化率	JIS K 2207	0.6%以下	・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前	・中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が10,000㎡あるいは使用する基層及び表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。 ・小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、次のいずれかに該当するものをいう。 ①施工面積で2,000㎡以上10,000㎡未満 ②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500t以上3,000t未満（コンクリートでは400㎥以上1,000㎥未満）	○
			薄膜加熱針入度残留率	JIS K 2207	65%以上	・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前		○
			タフネス・テナシティ試験	舗装試験法便覧 3-5-17	タフネス：20N・m テナシテイ：15N・m以上	・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前		○
			60℃粘度試験	舗装試験法便覧 3-5-11	20,000Pa・s	・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前		○
			密度試験	JIS K 2207		・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前		○

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認
14 排水性舗装工	プラント	必須	粒度（2.36㎜フルイ）	舗装試験法便覧 3-4-3 舗装試験法便覧 3-9-6	2.36㎜ふるい： ±12%以内基準粒度	・中規模以上の工事：定期的又は随時。 ・小規模以下の工事：異常が認められたとき。 ・印字記録の場合：全数又は抽出・ふるい分け試験１回～２回／日	・中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が10,000㎡あるいは使用する基層及び表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。 ・小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、次のいずれかに該当するものをいう。 ①施工面積で2,000㎡以上10,000㎡未満 ②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500t以上3,000t未満（コンクリートでは400㎥以上1,000㎥未満）	○
			粒度（75μｍフルイ）	舗装試験法便覧 3-4-3 舗装試験法便覧 3-9-6	75μｍふるい： ±５%以内基準粒度	・中規模以上の工事：定期的又は随時。 ・小規模以下の工事：異常が認められたとき。 ・印字記録の場合：全数又は抽出・ふるい分け試験１回～２回／日		○
			アスファルト量抽出粒度分析試験	舗装試験法便覧 3-9-6	アスファルト量： -0.9%以内	・中規模以上の工事：定期的又は随時。 ・小規模以下の工事：異常が認められたとき。 ・印字記録の場合：全数又は抽出・ふるい分け試験１回～２回／日		○
			温度測定（アスファルト・骨材・混合物）	温度計による。	配合設計で決定した混合温度。	随時		○
		その他	ホイールトラッキング試験	舗装試験法便覧 3-7-3	設計図書による。	設計図書による。	アスファルト混合物の耐流動性の確認	○
			ラベリング試験	舗装試験法便覧 3-7-2	設計図書による。	設計図書による。	アスファルト混合物の耐磨耗性の確認	○
			カンタブロ試験	「排水性舗装技術指針（案）」付録-６	設計図書による。	設計図書による。	アスファルト混合物の骨材飛散抵抗性の確認	○

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認
14 排水性舗装工	舗設現場	必須	温度測定（初期締固め前）	温度計による。	140～160℃	随時	測定値の記録は、１日４回（午前・午後各２回）	
			現場透水試験	「排水性舗装技術指針（案）」付録-7 舗装試験法便覧 5-4-1	X_{10} 1,000mL／15sec 以上	1,000㎡ごと。		
			現場密度の測定	舗装試験法便覧 5-3-6	基準密度の94%以上	・中規模以上の工事：定期的又は随時（1,000㎡につき１個）。 ・小規模以下の工事：異常が認められたとき。	・中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が10,000㎡あるいは使用する基層及び表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。 ・小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、次のいずれかに該当するものをいう。 ①施工面積で2,000㎡以上10,000㎡未満 ②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500t以上3,000t未満（コンクリートでは400㎥以上1,000㎥未満）	
			外観検査（混合物）	目視		随時		

工種	種別	試験区分	試　験　項　目	試　験　方　法	規　格　値	試　験　基　準	摘　　要	試験成績表等による確認
15 溶 接 工	施 工	必 須	引張試験：開先溶接	JIS Z 2241	引張強さが母材の規格値以上。	試験片の形状：JIS Z 3121　１号 試験片の個数：２	・溶接方法は「日本道路協会道路橋示方書・同解説」Ⅱ鋼橋編17-4-4溶接施工法図17-4-1開先溶接試験方法による。 ・なお、過去に同等もしくはそれ以上の条件で溶接施工試験を行い、かつ施工経験をもつ工場では、その時の試験報告書によって判断し、溶接施工試験を省略することができる。	
			型曲げ試験（19㎜未満裏曲げ）（19㎜以上側曲げ）：開先溶接	JIS Z 3122	亀裂が生じてはならない。 ただし、亀裂の発生原因がブローホールあるいはスラグ巻き込みであることが確認され、かつ、亀裂の長さが３㎜以下の場合は許容するものとする。	試験片の形状：JIS Z 3122 試験片の個数：２		
			衝撃試験：開先溶接	JIS Z 2242	溶着金属および溶接熱影響部で母材の規格値以上（それぞれ３個の平均）。	試験片の形状：JIS Z 2202　４号 試験片の採取位置：「日本道路協会道路橋示方書・同解説」Ⅱ鋼橋編17.4.4溶接施工法　図 17.4.2 衝撃試験片 試験片の個数：各部位につき３		

工種	種別	試験区分	試　験　項　目	試　験　方　法	規　格　値	試　験　基　準	摘　　要	試験成績表等による確認
15 溶 接 工	施 工	必 須	マクロ試験：開先溶接	JIS G 0553に準じる。	欠陥があってはならない。	試験片の個数：１	・溶接方法は「日本道路協会道路橋示方書・同解説」Ⅱ鋼橋編17-4-4溶接施工法図17-4-1開先溶接試験方法による。 ・なお、過去に同等もしくはそれ以上の条件で溶接施工試験を行い、かつ施工経験をもつ工場では、その時の試験報告書によって判断し、溶接施工試験を省略することができる。	
			非破壊試験：開先溶接	JIS Z 3104	引張側：２類以上 圧縮側：３類以上	試験片の個数：試験片継手全長		
			マクロ試験：すみ肉溶接	JIS G 0553 に準じる。	欠陥があってはならない。	試験片の形状：「日本道路協会道路橋示方書・同解説」Ⅱ鋼橋編17.4.4溶接図-17.4.3すみ肉溶接試験（マクロ試験）溶接方法および試験片の形状 試験片の個数：１		

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認
15 溶 接 工	施 工	必 須	引張試験：スタッド溶接	JIS Z 2241	道路橋示方書・同解説による。	試験片の形状：JIS B 1198 試験片の個数：３	・なお、過去に同等もしくはそれ以上の条件で溶接施工試験を行い、かつ施工経験をもつ工場では、その時の試験報告書によって判断し、溶接施工試験を省略することができる。	
			曲げ試験：スタッド溶接	JIS Z 3145	溶接部に亀裂を生じてはならない。	試験片の形状：JIS Z 3145 試験片の個数：３		
			突合せ継手の内部欠陥に対する検査	JIS Z 3104	引張側：２類以上 圧縮側：３類以上	RTの場合はJIS Z 3104による。 UTの場合はJIS Z 3060による。		
			外観検査（余盛高さ）	・目視 ・ノギス等による計測	道路橋示方書・同解説による。			

工種	種別	試験区分	試　験　項　目	試　験　方　法	規　格　値	試　　験　　基　　準	摘　　要	試験成績表等による確認
15 溶 接 工	施 工	必 須	外観検査（すみ肉溶接サイズ）	・目視 ・ノギス等による計測	すみ肉溶接のサイズおよびのど厚は、指定すみ肉サイズおよびのど厚を下回ってはならない。 ただし、１溶接線の両端各50㎜を除く部分では、溶接長さの10%までの範囲で、サイズおよびのど厚ともに-1.0㎜の誤差を認めるものとする。			
			外観検査（アンダーカット）	・目視 ・ノギス等による計測	アンダーカットの深さは 0.5㎜以下でなければならない。			
			外観検査（オーバーラップ）	・目視 ・ノギス等による計測	あってはならない。			
			外観検査（ビート表面の不整）	・目視 ・ノギス等による計測	ビート表面の凹凸は、ビート長さ25㎜の範囲で３㎜以下。			

工種	種別	試験区分	試　験　項　目	試　験　方　法	規　格　値	試　験　基　準	摘　　要	試験成績表等による確認
15 溶 接 工	施 工	必 須	外観検査（アークスタッド）	・目視 ・ノギス等による計測	・余盛り形状の不整：余盛りは全周にわたり包囲していなければならない。なお、余盛りは高さ１㎜、幅0.5㎜以上 ・クラックおよびスラグ巻込み：あってはならない。 ・アンダーカット：するどい切欠状のアンダーカットがあってはならない。ただし、グラインダー仕上げ量が 0.5㎜以内に納まるものは仕上げて合格とする。 ・スタッドジベルの仕上り高さ：（設計値±２㎜）をこえてはならない。			
		その 他	ハンマー打撃試験	ハンマー打撃	われなどの欠陥を生じないものを合格。	外観検査の結果が不合格となったスタッドジベルについて全数。 外観検査の結果が合格のスタッドジベルの中から１%について抜取り曲げ検査を行なうものとする。	・余盛が包囲していないスタッドジベルは、その方向と反対の15°の角度まで曲げるものとする。 ・15°曲げても欠陥の生じないものは、元に戻すことなく、曲げたままにしておくものとする。	

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認
16 改良土	材料	必須	八尾市建設発生土の適正処理について　１．良質土・改良土の品質管理基準による。				下水道工事	
	施工	必須	八尾市建設発生土の適正処理について　１．良質土・改良土の品質管理基準による。				下水道工事	
17 鋼材	材料	必須	外観検査	目視	設計仕様書、建設用資材ハンドブックによる。			
	施工	必須	外観検査	目視	設計仕様書、建設用資材ハンドブックによる。			

写真管理基準

（適用範囲）

１．この写真管理基準は、土木工事施工管理基準７の（１）に定める土木工事の写真の撮影に適用する。

（工事写真の分類）

２．工事写真は次のように分類する。

工事写真
- 着手前及び完成写真（既済部分写真等を含む）
- 施工状況写真
- 安全管理写真
- 使用材料写真
- 品質管理写真
- 出来形管理写真
- 災害写真
- 事故写真
- その他（環境、補償等）

（工事写真の撮影基準）

３．工事写真の撮影は以下の要領で行う。

（１）撮影頻度

工事写真の撮影頻度は、別紙撮影箇所の一覧に示すものとする。

（２）撮影方法

写真撮影にあたっては、次の項目のうち必要事項を記載した小黒板を被写体とともに写しこむものとする。

① 工事名
② 工種等
③ 測点（位置）
④ 設計寸法
⑤ 実測寸法
⑥ 略図

なお、小黒板の判読が困難となる場合は、別紙に必要事項を記入し、写真に添付して整理する。

特殊な場合で監督員が指示するものは、指示した項目を指示した頻度で撮影するものとする。

（写真の省略）
４．工事写真は次の場合は省略するものとする。
（１）品質管理写真について、公的機関で実施された品質証明書を保管整備できる場合は、撮影を省略することができるものとする。
（２）出来形管理写真について、完成後測定可能な部分については、出来形管理状況のわかる写真を細別ごとに１回撮影し、後は撮影を省略することができるものとする。
（３）監督員が臨場して段階確認した箇所は、出来形管理写真の撮影を省略することができるものとする。

（写真の色採）
５．写真はカラーとする。

（写真の大きさ）
６．写真の大きさは、サービスサイズ程度とする。
ただし、次の場合は別の大きさとすることができる。
（１）着手前、完成写真等はキャビネット版又はパノラマ写真（つなぎ写真可）とすることができる。
（２）監督員が指示するものは、その指示した大きさとする。

（工事写真帳の大きさ）
７．工事写真帳は、４切版のフリーアルバム又はＡ４版とする。

（工事写真の提出部数及び形式）
８．工事写真の提出及び形式は次によるものとする。
（１）工事写真としては、工事写真帳と原本を工事完成時に各１部提出する。
（２）原本としては、ネガ（ＡＰＳの場合はカートリッジフィルム）とする。

（工事写真の整理方法）
９．工事写真の整理方法は次によるものとする。
（１）工事写真帳の整理については、工種毎に別紙撮影箇所一覧表の提出頻度に示すものを標準とする。なお、提出頻度とは受注者が撮影頻度に基づき撮影した工事写真のうち、工事写真帳として貼付整理し提出する枚数を示したものである。
（２）工事写真の原本をネガで提出する場合は密着写真とともにネガアルバムに、撮影内容等がわかるように整理し提出する。ＡＰＳのカートリッジフィルムで提出する場合はカートリッジフィルム内の撮影内容等がわかるように明示し、インデッ

クス・プリントとともに提出する。

（３）工事写真帳の整理については、工種毎に工事過程（着手前、施工状況、出来形管理、完成等）が容易に把握できるようにする。なお、提供写真枚数が多くなる場合には、別に全体が把握できるダイジェスト版を作成するものとする。

（留意事項等）

１０．別紙撮影箇所一覧表の適用について、次の事項を留意するものとする。

（１）撮影項目、撮影頻度等が工事内容により不適切な場合は監督員の指示により追加、削除するものとする。

（２）施工状況等の写真については、ビデオカメラ等の活用ができるものとする。

（３）不可視となる出来形部分については、出来形寸法（上墨寸法含む）が確認できるよう、特に注意して撮影するものとする。

（４）撮影箇所がわかりにくい場合には、写真と同時に見取り図等をアルバムに添付する。

（５）撮影箇所一覧表に記載のない工種については類似工種を準用するものとする。

１１．用語の定義

（１）代表箇所とは、当該工種の代表箇所を示すもので、監督員の承諾した箇所をいう。

（２）適宜提出とは、監督員が指示した箇所を提出することをいう。

写真管理基準

撮影箇所一覧表

区　分	工　　種	写　真　管　理　項　目				摘　　要
		撮　影　項　目	撮影時期	撮　影　頻　度	提　出　頻　度	
着手前・完成	着手前	全景又は代表部分写真	着手前	着手前１回	着手前１枚	
	完成	全景又は代表部分写真	完成後	施工完了後１回	施工完了後１枚	
施工状況写真	工事施工中	全景又は代表部分の工事進捗状況	月末	月１回	適宜	
		施工中の写真	施工中	工種、種別毎に共通仕様書及び諸基準に従い施工していることが確認できるように適宜	適宜	
			施工中	高度技術、創意工夫・社会性等に関する実施状況が確認できるように適宜	適宜	高度技術、創意工夫・社会性等に関する実施状況の提出資料に添付
	仮設（指定仮設）	使用材料、仮設状況、形状寸法	施工前後	１施工箇所に１回	代表箇所１枚	
	図面との不一致	図面と現地との不一致の写真	発生時	必要に応じて	適宜	工事打合せ簿に添付する
安全管理	安全管理	各種標識類の設置状況	設置後	各種類毎に１回	全景１枚	
		各種保安施設の設置状況	設置後	各種類毎に１回		
		監視員交通整理状況	作業中	各１回		
		安全訓練等の実施状況	実施中	実施毎に１回	適宜	実施状況資料に添付する
使用材料	使用材料	形状寸法	使用前	各品目毎に１回	適宜	品質証明に添付する
		検査実施状況	検査時	各品目毎に１回		
品質管理写真	別添　品質管理写真撮影箇所一覧表に記載					
出来形管理写真	別添　出来形管理写真撮影箇所一覧表に記載					
災害	被災状況	被災状況及び被災規模等	被災前 被災直後 被災後	その都度	適宜	
事故	事故報告	事故の状況	発生前 発生直後 発生後	その都度	適宜	着手前は付近の写真でも可
その他	補償関係	被害又は損害状況等	発生前 発生直後 発生後	その都度	適宜	
	環境対策 イメージアップ等	各施設設置状況	設置後	各種毎１回	適宜	

番号	工　　種	写　真　管　理　項　目				摘　　要
		撮　影　項　目	撮影時期	撮　影　頻　度	提　出　頻　度	
1	セメント・コンクリート（転圧コンクリート・コンクリートダム・覆工コンクリート・吹付けコンクリートを除く）（施工）	塩化物総量規制	試験実施中	コンクリートの種類毎に１回	適宜	
		スランプ試験				
		ｺﾝｸﾘｰﾄの圧縮強度試験				
		空気量測定	試験実施中	品質に異常が認められた場合		
		ｺﾝｸﾘｰﾄの曲げ強度試験	試験実施中	コンクリートの種類毎に１回		コンクリート舗装の場合適用
		コアによる強度試験	試験実施中	品質に異常が認められた場合		
		ｺﾝｸﾘｰﾄの洗い分析試験				
	セメント・コンクリート（転圧コンクリート・コンクリートダム・覆工コンクリート・吹付けコンクリートを除く）（施工後）	ひび割れ調査	試験実施中	対象構造物毎に１回		
		硬化ｺﾝｸﾘｰﾄのﾃｽﾄﾊﾝﾏｰ強度試験				
		コアによる強度試験	試験実施中	ﾃｽﾄﾊﾝﾏｰ試験により必要が認められた時		
2	既製杭工	外観検査	検査実施中	検査毎に１回	適宜	
		浸透深傷試験	試験実施中	試験毎に１回		
		放射線透過試験				
		超音波深傷試験				
		水セメント比試験				
		ｾﾒﾝﾄﾐﾙｸの圧縮強度試験				
3	下層路盤	現場密度の測定	試験実施中	各種路盤毎に１回	適宜	
		プルフローリング	試験実施中	路盤毎に１回		
		平板載荷試験	試験実施中	各種路盤毎に１回		
		骨材のふるい分け試験	試験実施中	品質に異常が認められた場合		
		土の液性限界・塑性限界試験				
		含水比試験				
4	上層路盤	現場密度の測定	試験実施中	各種路盤毎に１回	適宜	
		平板載荷試験				
		土の液性限界・塑性限界試験	試験実施中	観察により異常が認められた場合		
		含水比試験				
5	アスファルト安定処理路盤	アスファルト舗装に準拠			適宜	

番号	工　　種	写　真　管　理　項　目				摘　　要
		撮　影　項　目	撮影時期	撮　影　頻　度	提　出　頻　度	
6	セメント安定処理路盤 （施工）	現場密度の測定	試験実施中	各種路盤毎に１回	適宜	
		含水比試験	試験実施中	観察により異常が認められた場合		
		セメント量試験	試験実施中	品質に異常が認められた場合		
7	アスファルト舗装 （舗設現場）	現場密度の測定	試験実施中	合材の種類毎に１回	適宜	
		温度測定				
		外観検査				
8	転圧コンクリート （施工）	コンシステンシーＶＣ試験	試験実施中	コンクリートの種類毎に１回	適宜	
		マーシャル突き固め試験				
		ランマー突き固め試験				
		ｺﾝｸﾘｰﾄの曲げ強度試験				
		温度測定（ｺﾝｸﾘｰﾄ）	温度測定中	コンクリートの種類毎に１回		
		現場密度の測定	試験実施中	コンクリートの種類毎に１回		
		コアによる密度測定				
9	路床安定処理工	現場密度の測定	試験実施中	路床毎に１回	適宜	
		プルーフローリング				
		平板載荷試験				
		現場ＣＢＲ試験				
		含水比試験	試験実施中	降雨後又は含水比の変化が認められた場合		
		たわみ試験	試験実施中	ﾌﾟﾙｰﾌﾛｰﾘﾝｸﾞの不良箇所について実施		
10	表層安定処理工	含水比試験	試験実施中	降雨後又は含水比の変化が認められた場合	適宜	
		現場密度の測定	試験実施中	材質毎に１回		
		プルーフローリング	試験実施中	工種毎に１回		
		平板載荷試験	試験実施中	材質毎に１回		
		現場ＣＢＲ試験				
		たわみ量	試験実施中	ﾌﾟﾙｰﾌﾛｰﾘﾝｸﾞの不良箇所について実施		

番号	工　　種	写　真　管　理　項　目				摘　　要
		撮　影　項　目	撮影時期	撮　影　頻　度	提　出　頻　度	
11	吹付工 （施工）	塩化物総量規制	試験実施中	配合毎に１回	適宜	
		ｺﾝｸﾘｰﾄの圧縮強度試験				
		スランプ試験	試験実施中	品質に変化が認められた場合		モルタルを除く
		空気量測定				
		コアによる強度試験	試験実施中	品質に異常が認められた場合		
12	現場吹付法枠工	ｺﾝｸﾘｰﾄの圧縮強度試験	試験実施中	配合毎に１回	適宜	
		塩化物総量規制				
		コアによる強度試験	試験実施中	品質に異常が認められた場合		
		スランプ試験	試験実施中	品質に変化が認められた場合		モルタルを除く
		空気量測定				
		ロックボルトの引抜き試験	試験実施中	試験毎に１回		
13	道路土工 （施工）	現場密度の測定	試験実施中	土質毎に１回	適宜	
		プルーフローリング	試験実施中	工種毎に１回		
		平板載荷試験	試験実施中	土質毎に１回		
		現場ＣＢＲ試験				
		含水比試験	試験実施中	降雨後又は含水比の変化が認められた場合		
		コーン指数の測定	試験実施中	トラフィカビリティが悪い場合		
		たわみ量	試験実施中	ﾌﾟﾙｰﾌﾛｰﾘﾝｸﾞの不良箇所について実施		
		土研式貫入試験	試験実施中	路線毎に１回		
14	捨石工	岩石の形状	試験実施中	産地又は岩質毎に１回	適宜	
15	路上再生路盤工 （材料）	修正ＣＢＲ試験	試験実施中	材料毎に１回	適宜	
		土の粒度試験				
		土の含水比試験				
		土の液性限界・塑性限界試験				
	路上再生路盤工 （施工）	現場密度の測定	試験実施中	材料毎に１回		
		土の一軸圧縮試験				
		含水比試験				

番号	工　　種	写　真　管　理　項　目				摘　　要
		撮　影　項　目	撮影時期	撮　影　頻　度	提　出　頻　度	
16	路上表層再生工 （材料）	旧ｱｽﾌｧﾙﾄ針入度	試験実施中	材料毎に１回	適宜	
		旧ｱｽﾌｧﾙﾄの軟化点				
	路上表層再生工 （施工）	現場密度の測定	試験実施中	材料毎に１回		
		温度測定				
		かきほぐし深さ				
		粒度				
		ｱｽﾌｧﾙﾄ量抽出粒度分析試験				
17	排水性舗装工 （舗設現場）	温度測定	試験実施中	合材の種類毎に１回	適宜	
		現場透水試験				
		現場密度の測定				
		外観検査				

出来形管理写真撮影箇所一覧表

編	章	節	条	枝番	工　　種	写　真　管　理　項　目			摘　要
						撮影項目	撮影頻度〔時期〕	提出頻度	
1 共通編	3 一般施工	3 共通的工種	4		矢板工〔指定仮設・任意仮設は除く〕 （鋼矢板） （軽量鋼矢板） （コンクリート矢板） （広幅型鋼矢板） （可とう鋼矢板）	根入長	40m又は1施工箇所に1回 〔打込前後〕	代表箇所各1枚	
						変位	40m又は1施工箇所に1回 〔打込後〕		
						数量	全数量　〔打込後〕		
1 共通編	3 一般施工	3 共通的工種	5	1	法枠工 （現場打法枠工） （現場吹付法枠工）	法長 幅 高さ 吹付枠中心間隔	40m又は1施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所各1枚	
1 共通編	3 一般施工	3 共通的工種	5	2	法枠工 （プレキャスト法枠工）	法長	40m又は1施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所各1枚	
1 共通編	3 一般施工	3 共通的工種	6		吹付工 （コンクリート） （モルタル）	清掃状況	40m又は1施工箇所に1回 〔清掃後〕	代表箇所各1枚	
						ﾗｽ鉄網の重ね合せ寸法	40m又は1施工箇所に1回 〔吹付前〕		
						法長	40m又は1施工箇所に1回 〔施工後〕		
						厚さ （検測孔）	40m又は1施工箇所に1回 〔吹付後〕		
1 共通編	3 一般施工	3 共通的工種	7	1	植生工 （種子吹付工） （張芝工） （筋芝工） （市松芝工） （植生ネット工） （種子帯工） （人工張芝工） （植生穴工）	材料使用量	1工事に1回　〔混合前〕	代表箇所各1枚	
						土羽土の厚さ	40m又は1施工箇所に1回 〔施工中〕		
						法長	40m又は1施工箇所に1回 〔施工後〕		
1 共通編	3 一般施工	3 共通的工種	7	2	植生工 （厚層基材吹付工） （客土吹付工）	清掃状況	40m又は1施工箇所に1回 〔清掃後〕	代表箇所各1枚	
						ﾗｽ鉄網の重ね合せ寸法	40m又は1施工箇所に1回 〔吹付前〕		
						厚さ （検測孔）	40m又は1施工箇所に1回 〔吹付後〕		
						法長	40m又は1施工箇所に1回 〔施工後〕		
						材料使用量	1工事に1回　〔混合前〕		
1 共通編	3 一般施工	3 共通的工種	8		縁石工 （縁石・アスカーブ）	施工状況	1種別毎に1回　〔施工中〕	代表箇所各1枚	
1 共通編	3 一般施工	3 共通的工種	9		小型標識工	基礎幅 基礎高さ 根入れ長	基礎タイプ毎5箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所各1枚	

編	章	節	条	枝番	工　　種	写　真　管　理　項　目			摘　要
						撮影項目	撮影頻度（時期）	提出頻度	
1 共通編	3 一般施工	3 共通的工種	10		防止柵工 （立入防止柵） （転落（横断）防止柵） （車止めポスト）	＊基礎幅 ＊基礎高さ	1施工箇所に1回（＊印は現場打ち部分がある場合） 〔施工後〕	代表箇所各1枚	
						パイプ取付高	1施工箇所に1回 〔施工後〕		
1 共通編	3 一般施工	3 共通的工種	11	1	路側防護柵工 （ガードレール）	＊基礎幅 ＊基礎高さ ＊配筋状況	1施工箇所に1回（＊印は現場打ち部分がある場合） 〔施工後〕	代表箇所各1枚	
						ビーム取付高	1施工箇所に1回 〔施工後〕		
1 共通編	3 一般施工	3 共通的工種	11	2	路側防護柵工 （ガードケーブル）	＊基礎幅 ＊基礎高さ ＊基礎延長	1施工箇所に1回（＊印は現場打ち部分がある場合） 〔施工後〕	代表箇所各1枚	
						ケーブル取付高	1施工箇所に1回 〔施工後〕		
1 共通編	3 一般施工	3 共通的工種	12		区画線工	材料使用量	全数量 〔施工前後〕	代表箇所各1枚	
						施工状況	施工日に1回 〔施工前後〕		
1 共通編	3 一般施工	3 共通的工種	13		道路附属物工 （視線誘導標） （距離標）	高さ	1施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所各1枚	
1 共通編	3 一般施工	3 共通的工種	14	1	桁製作工	原寸状況	1橋に1回又は1工事に1回 〔原寸時〕	代表箇所各1枚	
						製作状況	適宜 〔製作中〕		
						仮組立寸法 （撮影項目は適宜）	1橋に1回又は1工事に1回 〔仮組立時〕		
1 共通編	3 一般施工	3 共通的工種	14	2	桁製作工 （仮組立による検査を省略する場合）	原寸状況	1橋に1回又は1工事に1回 〔原寸時〕	代表箇所各1枚	
						製作状況	適宜 〔製作中〕		
						仮組立寸法 （撮影項目は適宜）	1橋に1回又は1工事に1回 〔仮組立時〕		
1 共通編	3 一般施工	3 共通的工種	15		工場塗装工	材料使用量 （塗料缶）	全数量 〔使用前後〕	代表箇所各1枚	
						ケレン状況 （塗替）	部材別 〔施工前後〕		
						塗装状況	各層毎に1回 〔塗装後〕		
1 共通編	3 一般施工	3 共通的工種	16		コンクリート面塗装工	材料使用量 （塗料缶）	全数量 〔使用前後〕	代表箇所各1枚	
						ケレン状況 （塗替）	スパン毎、部材別 〔施工前後〕		
						塗装状況	各層毎に1回 〔塗装後〕		

編	章	節	条	枝番	工　　種	写　真　管　理　項　目			摘　要
						撮影項目	撮影頻度（時期）	提出頻度	
1 共通編	3 一般施工	4 基礎工	1		一般事項 （切込砂利） （砕石基礎工） （割ぐり石基礎工） （均しコンクリート）	幅 高さ	40m又は1施工箇所に1回 〔施工後〕	適宜	
1 共通編	3 一般施工	4 基礎工	3	1	法留基礎工（現場打）	幅 高さ	40m又は1施工箇所に1回 〔型枠取外し後〕	代表箇所各1枚	
1 共通編	3 一般施工	4 基礎工	3	2	法留基礎工（プレキャスト）	据付状況	40m又は1施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所各1枚	
1 共通編	3 一般施工	4 基礎工	4		既製杭工 （既製コンクリート杭） （鋼管杭） （H鋼杭）	偏心量	1施工箇所に1回　〔打込後〕	代表箇所各1枚	
						根入長	1施工箇所に1回　〔打込前〕		
						数量	全数量 〔打込後〕		
						杭頭処理状況	1施工箇所に1回 〔処理前、中、後〕		
1 共通編	3 一般施工	4 基礎工	5		場所打杭工	根入長	1施工箇所に1回　〔施工中〕	代表箇所各1枚	
						偏心量	1施工箇所に1回　〔打込後〕		
						数量、杭径	全数量　〔打込後〕		
						杭頭処理状況	1施工箇所に1回 〔処理前、中、後〕		
						鉄筋組立状況	1施工箇所に1回　〔組立後〕		
1 共通編	3 一般施工	4 基礎工	6		深礎工	根入長	全数量 〔掘削後〕	代表箇所各1枚	
						偏心量 数量	全数量 〔施工後〕		
						ライナープレート設置状況	1施工箇所に1回 〔掘削後〕		
						土質	土質の変わる毎に1回 〔掘削中〕		
						鉄筋組立状況	全数量　〔組立後〕		
1 共通編	3 一般施工	4 基礎工	9		鋼管井筒基礎工	沓	1基毎に1回　〔据付後〕	全枚数	
						根入長 偏心量 鉄筋組立状況	1基毎に1回　〔設置後〕		
						載荷状況	1基に1回 〔載荷時〕		
						封鎖コンクリート打設状況中埋状況	1基に1回 〔施工時〕		

編	章	節	条	枝番	工　　種	写　真　管　理　項　目			摘　要
						撮影項目	撮影頻度（時期）	提出頻度	
1 共通編	3 一般施工	5 石・ブロック積（張）工	3	1	コンクリートブロック工 （コンクリートブロック積み） （コンクリートブロック張り）	厚さ（裏込）	40m又は１施工箇所に１回 〔施工中〕	代表箇所各１枚	
						法長 厚さ (ﾌﾞﾛｯｸ積張)	40m又は１施工箇所に１回 〔施工後〕		
1 共通編	3 一般施工	5 石・ブロック積（張）工	3 コンクリートブロック工	2	コンクリートブロック工 （連節ブロック張り）	法長	40m又は１施工箇所に１回 〔施工後〕 ただし、根入部は60mに１回	代表箇所各１枚	
1 共通編	3 一般施工	5 石・ブロック積（張）工	3 コンクリートブロック工	3	コンクリートブロック工 （天端保護ブロック）	幅	40m又は１施工箇所に１回 〔施工後〕	代表箇所各１枚	
1 共通編	3 一般施工	5 石・ブロック積（張）工	4		緑化ブロック工	厚さ（裏込）	40m又は１施工箇所に１回 〔施工中〕	代表箇所各１枚	
						法長 厚さ （ブロック）	40m又は１施工箇所に１回 〔施工後〕 ただし、根入部は60mに１回		
1 共通編	3 一般施工	5 石・ブロック積（張）工	5		石積（張）工	厚さ（裏込）	40m又は１施工箇所に１回 〔施工中〕	代表箇所各１枚	
						法長 厚さ （石積･張）	40m又は１施工箇所に１回 〔施工後〕 ただし、根入部は60mに１回		

編	章	節	条	枝番	工　　種	写　真　管　理　項　目			摘　要
						撮影項目	撮影頻度（時期）	提出頻度	
1 共通編	3 一般施工	6 一般舗装工	5	1	アスファルト舗装工 （下層路盤工）	敷均し厚さ 転圧状況	各層20m毎又は側点毎に１回 〔施工中〕	代表箇所各１枚	
						製正状況	各層20m毎又は側点毎に１回 〔製正後〕		
						厚さ	各層20m毎又は側点毎に１回 〔製正後〕		
						幅	各層40m毎又は側点毎に１回 〔製正後〕		
1 共通編	3 一般施工	6 一般舗装工	5	2	アスファルト舗装工 （上層路盤工） 粒度調整路盤工	敷均し厚さ 転圧状況	各層20m毎又は側点毎に１回 〔施工中〕	代表箇所各１枚	
						製正状況	各層20m毎又は側点毎に１回 〔製正後〕		
						厚さ	各層20m毎又は側点毎に１回 〔製正後〕		
						幅	各層100m毎又は側点毎に１回 〔製正後〕		
1 共通編	3 一般施工	6 一般舗装工	5	3	アスファルト舗装工 （上層路盤工） セメント（石灰）安定処理工	敷均し厚さ 転圧状況	各層20m毎又は側点毎に１回 〔施工中〕	代表箇所各１枚	
						製正状況	各層20m毎又は側点毎に１回 〔製正後〕		
						厚さ	1,000㎡に１回　〔製正後〕		
						幅	各層100m毎又は側点毎に１回 〔製正後〕		
1 共通編	3 一般施工	6 一般舗装工	5	4	アスファルト舗装工 （加熱アスファルト安定処理工）	敷均し厚さ 転圧状況	各層40m毎又は側点毎に１回 〔施工中〕	代表箇所各１枚	
						製正状況	各層40m毎又は側点毎に１回 〔製正後〕		
						幅	各層100m毎又は側点毎に１回 〔製正後〕		
1 共通編	3 一般施工	6 一般舗装工	5	5	アスファルト舗装工 （基層工）	製正状況	40m毎又は側点毎に１回 〔製正後〕	代表箇所各１枚	
						ﾀｯｸｺｰﾄ、ﾌﾟﾗｲﾑｺｰﾄ	各層毎に１回 〔散布時〕		
						厚さ	1,000㎡に１回 〔製正後〕		
						幅	各層100m毎又は側点毎に１回 〔製正後〕		
1 共通編	3 一般施工	6 一般舗装工	5	6	アスファルト舗装工 （表層工）	製正状況	40m毎又は側点毎に１回 〔製正後〕	代表箇所各１枚	
						ﾀｯｸｺｰﾄ、ﾌﾟﾗｲﾑｺｰﾄ	各層毎に１回 〔散布時〕		
						平坦性	１工事に１回 〔実施中〕		
						厚さ	1,000㎡に１回 〔製正後〕		
1 共通編	3 一般施工	6 一般舗装工	6	1	コンクリート舗装工 （下層路盤工）	敷均し厚さ 転圧状況	各層20m毎又は側点毎に１回 〔施工中〕	代表箇所各１枚	
						製正状況	各層20m毎又は側点毎に１回 〔製正後〕		
						厚さ	各層20m毎又は側点毎に１回 〔製正後〕		
						幅	各層40m毎又は側点毎に１回 〔製正後〕		

編	章	節	条	枝番	工　　種	写　真　管　理　項　目			摘　要
						撮影項目	撮影頻度（時期）	提出頻度	
1 共通編	3 一般施工	6 一般舗装工	6	2	コンクリート舗装工 （粒度調整路盤工）	敷均し厚さ 転圧状況	各層20m毎又は側点毎に１回 〔施工中〕	代表箇所各１枚	
						製正状況	各層毎20m毎又は側点毎に１回 〔製正後〕		
						厚さ	各層20m毎又は側点毎に１回 〔製正後〕		
						幅	各層100m毎又は側点毎に１回 〔製正後〕		
1 共通編	3 一般施工	6 一般舗装工	6	3	コンクリート舗装工 （セメント(石灰・瀝青)安定処理工）	敷均し厚さ 転圧状況	各層20m毎又は側点毎に１回 〔施工中〕	代表箇所各１枚	
						製正状況	各層20m毎又は側点毎に１回 〔製正後〕		
						厚さ	1,000㎡に１回　〔製正後〕		
						幅	各層100m毎又は側点毎に１回 〔製正後〕		
1 共通編	3 一般施工	6 一般舗装工	6	4	コンクリート舗装工 （アスファルト中間層）	製正状況	各層40m毎又は側点毎に１回 〔製正後〕	代表箇所各１枚	
						ﾀｯｸｺｰﾄ、ﾌﾟﾗｲﾑｺｰﾄ	各層毎に１回 〔散布時〕		
						幅	各層100m毎又は側点毎に１回 〔製正後〕		
1 共通編	3 一般施工	6 一般舗装工	6	5	コンクリート舗装工 （コンクリート舗装版工）	石粉、ﾌﾟﾗｲﾑｺｰﾄ	各層毎に１回 〔散布時〕	代表箇所各１枚	
						ｽﾘｯﾌﾟﾊﾞｰ、ﾀｲﾊﾞｰ寸法、位置	40m毎又は側点毎に１回 〔据付後〕		
						鉄網寸法 位置	40m毎又は側点毎に１回 〔据付後〕		
						平坦性	１工事に１回　〔実施中〕		
						厚さ	各層100m毎又は側点毎に１回 〔型枠据付後〕		
						目地段差	１工事に１回		
1 共通偏	3 一般施工	6 一般舗装工	6	6	コンクリート舗装工 （転圧コンクリート版工） 下層路盤工	敷均し厚さ 転圧状況	各層20m毎又は側点毎に１回 〔施工中〕	代表箇所各１枚	
						製正状況	各層20m毎又は側点毎に１回 〔製正後〕		
						厚さ	各層20m毎又は側点毎に１回 〔製正後〕		
						幅	各層40m毎又は側点毎に１回 〔製正後〕		
1 共通編	3 一般施工	6 一般舗装工	6	7	コンクリート舗装工 （転圧コンクリート版工） 粒度調整路盤工	敷均し厚さ 転圧状況	各層20m毎又は側点毎に１回 〔施工中〕	代表箇所各１枚	
						製正状況	各層20m毎又は側点毎に１回 〔製正後〕		
						厚さ	各層20m毎又は側点毎に１回 〔製正後〕		
						幅	各層100m毎又は側点毎に１回 〔製正後〕		

編	章	節	条	枝番	工　　種	写　真　管　理　項　目			摘　要
						撮影項目	撮影頻度（時期）	提出頻度	
1 共通編	3 一般施工	6 一般舗装工	6	8	コンクリート舗装工 （転圧コンクリート版工） セメント(石灰・瀝青)安定処理工	敷均し厚さ 転圧状況	各層20m毎又は側点毎に１回 〔施工中〕	代表箇所各１枚	
						製正状況	各層毎20m毎又は側点毎に１回 〔製正後〕		
						厚さ	1,000㎡に１回　〔製正後〕		
						幅	各層100m毎又は側点毎に１回 〔製正後〕		
1 共通編	3 一般施工	6 一般舗装工	6	9	コンクリート舗装工 （転圧コンクリート版工） アスファルト中間層	製正状況	40m毎又は側点毎に１回 〔製正後〕	代表箇所各１枚	
						ﾀｯｸｺｰﾄ、ﾌﾟﾗｲﾑｺｰﾄ	各層毎に１回 〔散布時〕		
						幅	各層100m毎又は側点毎に１回 〔製正後〕		
1 共通編	3 一般施工	6 一般舗装工	6	10	コンクリート舗装工 （転圧コンクリート版工）	敷均し厚さ 転圧状況	40m毎又は側点毎に１回 〔施工中〕	代表箇所各１枚	
						厚さ	各層40m毎又は側点毎に１回 〔型枠据付後〕		
						平坦性	１工事１回　〔実施中〕		

編	章	節	条	枝番	工　　種	写　真　管　理　項　目			摘　要
						撮影項目	撮影頻度（時期）	提出頻度	
1 共通編	3 一般施工	7 地盤改良工	2		路床安定処理工	施工厚さ 幅	60mに１回 〔施工後〕	代表箇所各１枚	
1 共通編	3 一般施工	7 地盤改良工	3		置換工	置換厚さ 幅	60m又は１施工箇所に１回 〔施工後〕	代表箇所各１枚	
1 共通編	3 一般施工	7 地盤改良工	4	1	表層安定処理工 （サンドマット）	施工厚さ 幅	60m又は１施工箇所に１回 〔施工後〕	代表箇所各１枚	
1 共通編	3 一般施工	7 地盤改良工	5		パイルネット工	厚さ 幅	60m又は１施工箇所に１回 〔施工後〕	代表箇所各１枚	
1 共通編	3 一般施工	10 仮設工	5	1	土留・仮締切工 （Ｈ鋼杭） （鋼矢板）	変位 根入長	60m又は１施工箇所に１回 〔打込前〕	代表箇所各１枚	
						数量	全数量 〔打込後〕		
1 共通編	3 一般施工	10 仮設工	5	2	土留・仮締切工 （アンカー工）	削孔深さ	１施工箇所に１回 〔削孔後〕	代表箇所各１枚	
						配置誤差	１施工箇所に１回 〔施工後〕		
1 共通編	3 一般施工	10 仮設工	5	3	土留・仮締切工 （連節ブロック張り工）	法長	200m又は１施工箇所に１回 〔施工後〕 ただし、根入部は60mに１回	代表箇所各１枚	
1 共通編	3 一般施工	10 仮設工	5	4	土留・仮締切工 （締切盛土）	天端幅 法長	250m又は１施工箇所に１回 〔施工後〕	代表箇所各１枚	
1 共通編	3 一般施工	10 仮設工	5	5	土留・仮締切工 （中詰盛土）	施工状況	250m又は１施工箇所に１回 〔施工後〕	代表箇所各１枚	

編	章	節	条	枝番	工　　種	写　真　管　理　項　目			摘　要
						撮影項目	撮影頻度（時期）	提出頻度	
1 共通編	4 土工	3 河川・海岸・砂防土工	2		掘削工（切土工）	土質等の判別	地質が変わる毎に１回 〔掘削中〕	代表箇所各１枚	
						法長	200m又は１施工箇所に１回 〔掘削後〕		
1 共通編	4 土工	3 河川・海岸・砂防土工	3		盛土工	巻出し厚	60mに１回 〔巻出し時〕	代表箇所各１枚	
						締固め状況	転圧機械又は地質が変わる毎に１回 〔締固め時〕		
						法長 幅	200m又は１施工箇所に１回 〔施工後〕		
1 共通編	4 土工	3 河川・海岸・砂防土工	4		盛土補強工 （補強土(テールアルメ)壁工法） （多数アンカー式補強土工法） （ジオテキスタイルを用いた補強土工法）	厚さ	60m又は１施工箇所に１回 〔施工後〕	代表箇所各１枚	
1 共通編	4 土工	3 河川・海岸・砂防土工	5		整形仕上げ工（盛土工）	仕上げ状況 厚さ	60m又は１施工箇所に１回 〔仕上げ時〕	代表箇所各１枚	
1 共通偏	4 土工	3 河川・海岸・砂防土工	6		天端敷砂利工	厚さ 幅	200mに１回 〔施工後〕 60mに１回 〔施工後〕	代表箇所各１枚	
1 共通編	4 土工	4 道路土工	2		掘削工（切土工）	土質等の判別	地質が変わる毎に１回 〔掘削中〕	代表箇所各１枚	
						法長	200m又は１施工箇所に１回 〔掘削後〕		
1 共通編	4 土工	4 道路土工	3 4		路体盛土工 路床盛土工	巻出し厚	60mに１回 〔巻出し時〕	代表箇所各１枚	
						締固め状況	転圧機械又は地質が変わる毎に１回 〔締固め時〕		
						法長 幅	200m又は１施工箇所に１回 〔施工後〕		

編	章	節	条	枝番	工　　種	写　真　管　理　項　目			摘　要
						撮影項目	撮影頻度（時期）	提出頻度	
1 共通編	4 土工	4 道路土工	5		法面整形工（盛土工）	仕上げ状況 厚さ	200m又は１施工箇所に１回 〔仕上げ時〕	代表箇所各１枚	
1 共通編	5 無筋・鉄筋コンクリート	5 鉄筋	3 鉄筋の組立て		鉄筋の組立て	平均間隔	コンクリート打設毎に１回 （重要構造物かつ主鉄筋筋について適用）	代表箇所各１枚	
						かぶり	コンクリート打設毎に１回 （重要構造物かつ主鉄筋について適用）		
2 河川編	1 築堤・護岸	3 護岸基礎工	3		法留基礎工		第１編３－４－３法留基礎工に準ずる。		
2 河川編	1 築堤・護岸	3 護岸基礎工	4		矢板工		第１編３－３－４矢板工に準ずる。		
2 河川編	1 築堤・護岸	4 矢板護岸工	3		笠コンクリート工		第１編３－４－３法留基礎工に準ずる。		
2 河川編	1 築堤・護岸	4 矢板護岸工	4		矢板工		第１編３－３－４矢板工に準ずる。		
2 河川編	1 築堤・護岸	5 法覆護岸工	3		コンクリートブロック工		第１編３－５－３コンクリートブロック工に準ずる。		
2 河川編	1 築堤・護岸	5 法覆護岸工	4		護岸付属物工	幅 高さ	１施工箇所に１回 〔施工後〕	代表箇所各１枚	
2 河川編	1 築堤・護岸	5 法覆護岸工	5		緑化ブロック工		第１編３－５－４緑化ブロック工に準ずる。		
2 河川編	1 築堤・護岸	5 法覆護岸工	6		環境護岸ブロック工		第１編３－５－３コンクリートブロック工に準ずる。		

編	章	節	条	枝番	工　　種	写　真　管　理　項　目			摘　要
						撮影項目	撮影頻度（時期）	提出頻度	
2 河川編	1 築堤・護岸	5 法覆護岸工	7		石割り・石積み工		第１編３－５－５石積（張）工に準ずる。		
2 河川編	1 築堤・護岸	5 法覆護岸工	8		法枠工		第１編３－３－５法枠工に準ずる。		
2 河川編	1 築堤・護岸	5 法覆護岸工	9	1	多自然型護岸工 （巨石張り） （巨石積み）	胴込裏込厚	60m又は１施工箇所に１回 〔施工中〕	代表箇所各１枚	
						法長	200m又は１施工箇所に１回 〔施工後〕		
2 河川編	1 築堤・護岸	5 法覆護岸工	9	2	多自然型護岸工 （かごマット）	高さ 法長	200m又は１施工箇所に１回 〔施工後〕	代表箇所各１枚	
2 河川編	1 築堤・護岸	5 法覆護岸工	10		吹付工		第１編３－３－６吹付工に準ずる。		
2 河川編	1 築堤・護岸	5 法覆護岸工	11		植生工		第１編３－３－７植生工に準ずる。		
2 河川編	1 築堤・護岸	5 法覆護岸工	12		覆土工		第１編４－３－５整形仕上げ工に準ずる。		
2 河川編	1 築堤・護岸	5 法覆護岸工	13	1	羽口工（じゃかご）	法長 厚さ	200m又は１施工箇所に１回 〔施工後〕	代表箇所各１枚	
2 河川編	1 築堤・護岸	5 法覆護岸工	13	2	羽口工 （ふとんかご） （かご枠）	高さ	200m又は１施工箇所に１回 〔施工後〕	代表箇所各１枚	
2 河川編	1 築堤・護岸	5 法覆護岸工	13	3	羽口工 （連節ブロック張り）		第１編３－５－３－２連節ブロック張りに準ずる。	代表箇所各１枚	

編	章	節	条	枝番	工　　種	写　真　管　理　項　目			摘　要
						撮影項目	撮影頻度（時期）	提出頻度	
2 河川編	1 築堤・護岸	6 擁壁護岸工	3		コンクリート擁壁工	裏込厚さ	60m又は1施工箇所に1回〔施工中〕	代表箇所各1枚	
						厚さ 幅 高さ	200m又は1施工箇所に1回〔型枠取外し後〕		
2 河川編	1 築堤・護岸	6 擁壁護岸工	4		プレキャスト擁壁工	据付状況	200m又は1施工箇所に1回〔埋戻し前〕	代表箇所各1枚	
2 河川編	1 築堤・護岸	7 根固め工	3		根固めブロック工	数量	全数量〔製作後〕	代表箇所各1枚	
						ブロックの形状寸法	形状寸法変わる毎に1回〔製作後〕		
2 河川編	1 築堤・護岸	7 根固め工	5		沈床工	格子寸法 厚さ 割石状況 幅	60m又は1施工箇所に1回〔施工後〕	代表箇所各1枚	
2 河川編	1 築堤・護岸	7 根固め工	6		捨石工	幅	60m又は1施工箇所に1回〔施工後〕	代表箇所各1枚	
2 河川編	1 築堤・護岸	7 根固め工	7	1	かご工 （じゃかご）	法長 厚さ	60m又は1施工箇所に1回〔施工後〕	代表箇所各1枚	
2 河川編	1 築堤・護岸	7 根固め工	7	2	かご工 （ふとんかご）	高さ	60m又は1施工箇所に1回〔施工後〕	代表箇所各1枚	
2 河川編	1 築堤・護岸	8 水制工	3		沈床工	格子寸法 厚さ 割石状況 幅	60m又は1施工箇所に1回〔施工後〕	代表箇所各1枚	
2 河川編	1 築堤・護岸	8 水制工	4		捨石工	幅	200m又は1施工箇所に1回〔施工後〕	代表箇所各1枚	
2 河川編	1 築堤・護岸	8 水制工	5	1	かご工 （じゃかご）	法長 厚さ	200m又は1施工箇所に1回〔施工後〕	代表箇所各1枚	

編	章	節	条	枝番	工　　種	写　真　管　理　項　目			摘　要
						撮影項目	撮影頻度（時期）	提出頻度	
2 河川編	1 築堤・護岸	8 水制工	5	2	かご工 （ふとんかご）	高さ	200m又は１施工箇所に１回 〔施工後〕	代表箇所各１枚	
2 河川編	1 築堤・護岸	8 水制工	8		杭出し水制工	径 杭長	１施工箇所に１回 〔打込み前〕	代表箇所各１枚	
						幅 方向	１施工箇所に１回 〔施工後〕		
2 河川編	3 樋門・樋管	3 樋門・樋管本体工	6	1	函渠工 （本体工）	厚さ 幅 内空幅 内空高	１施工箇所に１回 〔型枠取外し後〕	代表箇所各１枚	
2 河川編	3 樋門・樋管	3 樋門・樋管本体工	6	2	函渠工 （ヒューム管） （ＰＣ管） （コルゲートパイプ） （ダクタイル鋳鉄管）	据付状況	60m又は１施工箇所に１回 〔巻立前〕	適宜	
2 河川編	3 樋門・樋管	3 樋門・樋管本体工	6	3	函渠工 （ＰＣ函渠）	据付状況 ＊幅 ＊高さ	60m又は１施工箇所に１回 （＊印場所打部分のある場合） 〔埋戻し前〕	代表箇所各１枚	
2 河川編	3 樋門・樋管	3 樋門・樋管本体工	7		翼壁工	厚さ 幅 高さ	１施工箇所に１回 〔型枠取外し後〕	代表箇所各１枚	
2 河川編	3 樋門・樋管	3 樋門・樋管本体工	8		水叩工	厚さ 幅 高さ	１施工箇所に１回 〔型枠取外し後〕	代表箇所各１枚	
2 河川編	3 樋門・樋管	4 護床工	3		根固めブロック工	数量	全数量 〔製作後〕	代表箇所各１枚	
						ブロックの形状寸法	形状寸法変わる毎に１回 〔製作後〕		
2 河川編	3 樋門・樋管	4 護床工	5		沈床工	格子寸法 厚さ 割石状況 幅	60m又は１施工箇所に１回 〔施工後〕	代表箇所各１枚	

編	章	節	条	枝番	工　　種	写　真　管　理　項　目			摘　要
						撮影項目	撮影頻度（時期）	提出頻度	
2 河川編	3 樋門・樋管	4 護床工	6		捨石工	幅	200m又は１施工箇所に１回 〔施工後〕	代表箇所各１枚	
2 河川編	3 樋門・樋管	4 護床工	7	1	かご工 （じゃかご）	法長 厚さ	200m又は１施工箇所に１回 〔施工後〕	代表箇所各１枚	
2 河川編	3 樋門・樋管	4 護床工	7	2	かご工 （ふとんかご）	高さ	200m又は１施工箇所に１回 〔施工後〕	代表箇所各１枚	
2 河川編	3 樋門・樋管	5 水路工	2		側溝工	厚さ 幅 高さ	200m又は１施工箇所に１回 〔型枠取外し後〕	適宜	
2 河川編	3 樋門・樋管	5 水路工	3		集水桝工	厚さ 幅 高さ	１施工箇所に１回 〔型枠取外し後〕	適宜	
2 河川編	3 樋門・樋管	5 水路工	5		堤脚水路工	厚さ 幅 高さ	200m又は１施工箇所に１回 〔型枠取外し後〕	適宜	
2 河川編	3 樋門・樋管	5 水路工	6		暗渠工	幅 深さ	60m又は１施工箇所に１回 〔埋戻し前〕	適宜	
2 河川編	3 樋門・樋管	5 水路工	7		樋門接続暗渠工	＊幅 ＊高さ	60m又は１施工箇所に１回 （＊印は場所打部分のある場合） 〔埋戻し前〕	適宜	
2 河川編	3 樋門・樋管	6 付属物設置工	5		階段工 （現場打階段） （プレキャスト階段）	幅 高さ 長さ	１施工箇所に１回 〔施工後〕	代表箇所各１枚	
2 河川編	3 樋門・樋管	6 付属物設置工	6		防止柵工		第１編３－３－１０防止柵工に準ずる。		

編	章	節	条	枝番	工　　種	写　真　管　理　項　目			摘　要
						撮影項目	撮影頻度（時期）	提出頻度	
6 道路編	1 道路改良	3 工場製作工	2	1	遮音壁支柱製作工	部材長	1施工箇所に1回 〔製作後〕	代表箇所各1枚	
6 道路編	1 道路改良	3 工場製作工	2	2	遮音壁支柱製作工 （工場塗装工）	材料使用量 （塗料缶）	全数量 〔使用前後〕	代表箇所各1枚	
						ケレン材料 （塗替）	部材別 〔施工前後〕		
						塗装状況	各層毎1スパンに1回 〔塗装後〕		
6 道路編	1 道路改良	4 法面工	2		植生工		第1編3－3－7植生工に準ずる。		
6 道路編	1 道路改良	4 法面工	7	1	かご工 （じゃかご）	法長 厚さ	200m又は1施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所各1枚	
6 道路編	1 道路改良	4 法面工	7	2	かご工 （ふとんかご）	高さ	200m又は1施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所各1枚	
6 道路編	1 道路改良	5 擁壁工	3		既製杭工		第1編3－4－4既製杭工に準ずる。		
6 道路編	1 道路改良	5 擁壁工	4		場所打杭工		第1編3－4－5場所打杭工に準ずる。		
6 道路編	1 道路改良	5 擁壁工	5		場所打擁壁工	裏込厚さ	60m又は1施工箇所に1回 〔施工中〕	代表箇所各1枚	
						幅 高さ 厚さ	200m又は1施工箇所に1回 〔型枠取外し後〕		
6 道路編	1 道路改良	5 擁壁工	6		プレキャスト擁壁工	据付状況	200m又は1施工箇所に1回 〔埋戻し前〕	代表箇所各1枚	
6 道路編	1 道路改良	5 擁壁工	7		補強土壁工 （補強土（テールアルメ）壁工） （多数アンカー式補強土工） （ジオテキスタイルを用いた補強土工法）	高さ 鉛直度	200m又は1施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所各1枚	
6 道路編	1 道路改良	5 擁壁工	8		井桁ブロック工	裏込厚さ	60m又は1施工箇所に1回 〔施工中〕	代表箇所各1枚	
6 道路編	1 道路改良	5 擁壁工	9		小型擁壁工	幅 高さ	200m又は1施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所各1枚	

編	章	節	条	枝番	工　　種	写　真　管　理　項　目			摘　要
						撮影項目	撮影頻度（時期）	提出頻度	
6 道路編	1 道路改良	5 擁壁工	10		土留・仮締切工		第１編３－１０－５土留・仮締切工に準ずる。		
6 道路編	1 道路改良	6 石・ブロック積（張）工	3		コンクリートブロック工		第１編３－５－３コンクリートブロック工に準ずる。		
6 道路編	1 道路改良	6 石・ブロック積（張）工	4		緑化ブロック工		第１編３－５－４緑化ブロック工に準ずる。		
6 道路編	1 道路改良	6 石・ブロック積（張）工	5		石積（張）工		第１編３－５－５石積（張）工に準ずる。		
6 道路編	1 道路改良	7 カルバート工	6		現場打カルバート工	厚さ 幅（内空） 高さ	100m又は１施工箇所に１回 〔型枠取外し後〕	代表箇所各１枚	
6 道路編	1 道路改良	7 カルバート工	7		プレキャストカルバート工 （プレキャストボックスエ） （プレキャストパイプエ）	据付状況	60m又は１施工箇所に１回 〔施工中〕	代表箇所各１枚	
						＊幅 ＊高さ	60m又は１施工箇所に１回 （＊印は場所打ちのある場合） 〔埋戻し前〕		
6 道路編	1 道路改良	7 カルバート工	8		土留・仮締切工		第１編３－１０－５土留・仮締切工に準ずる。		

編	章	節	条	枝番	工　　種	写　真　管　理　項　目			摘　要
						撮影項目	撮影頻度（時期）	提出頻度	
6 道路編	1 道路改良	8 小型水路工	2		側溝工 （プレキャストU型側溝） （コルゲートフリューム） （自由勾配側溝）	据付状況	60m又は1施工箇所に1回 〔埋戻し前〕	適宜	
6 道路編	1 道路改良	8 小型水路工	3		管渠工	据付状況	60m又は1施工箇所に1回 〔埋戻し前〕	適宜	
6 道路編	1 道路改良	8 小型水路工	4		集水桝・マンホール工	厚さ 幅 高さ	1施工箇所に1回 〔型枠取外し後〕	適宜	
6 道路編	1 道路改良	8 小型水路工	5		地下排水工	幅 深さ	60m又は1施工箇所に1回 〔埋戻し前〕	適宜	
6 道路編	1 道路改良	8 小型水路工	7		現場打（組立）水路工	厚さ 幅 高さ	200m又は1施工箇所に1回 〔型枠取外し後〕	代表箇所各1枚	
6 道路編	1 道路改良	9 落石雪害防止工	4		落石防止網工	幅	1施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所各1枚	
6 道路編	1 道路改良	9 落石雪害防止工	5		落石防護柵工	高さ	200m又は1施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所各1枚	
6 道路編	1 道路改良	9 落石雪害防止工	6		防雪柵工	高さ 基礎幅 基礎高さ	200m又は1施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所各1枚	
6 道路編	1 道路改良	9 落石雪害防止工	7		雪崩予防柵工	高さ 基礎幅 基礎高さ アンカー長	1施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所各1枚	

編	章	節	条	枝番	工　　種	写　真　管　理　項　目			摘　要
						撮影項目	撮影頻度（時期）	提出頻度	
6 道路編	1 道路改良	10 遮音壁工	4		既製杭工		第１編３－４－４既製杭工に準ずる。		
6 道路編	1 道路改良	10 遮音壁工	5		遮音壁基礎工	幅 高さ	基礎タイプ毎５箇所に１回 （施工前は必要に応じて） 〔施工前後〕	適宜	
6 道路編	1 道路改良	10 遮音壁工	6		遮音壁本体工	支柱間隔 支柱ずれ 支柱倒れ 高さ	１施工箇所に１回 〔施工後〕	代表箇所各１枚	
6 道路編	2 舗装	3 舗装工	6	1	半たわみ性舗装工 （下層路盤工）	敷均し厚さ 転圧状況	各層20m毎又は側点毎に１回 〔施工中〕	代表箇所各１枚	
						整正状況	各層20m毎又は側点毎に１回 〔整正後〕		
						厚さ	各層20m毎又は側点毎に１回 〔整正後〕		
						幅	各層40m毎又は側点毎に１回 〔整正後〕		
6 道路編	2 舗装	3 舗装工	6	2	半たわみ性舗装工（上層路盤工） 粒度調整路盤工	敷均し厚さ 転圧状況	各層20m毎又は側点毎に１回 〔施工中〕	代表箇所各１枚	
						整正状況	各層20m毎又は側点毎に１回 〔整正後〕		
						厚さ	各層20m毎又は側点毎に１回 〔整正後〕		
						幅	各層100m毎又は側点毎に１回 〔整正後〕		
6 道路編	2 舗装	3 舗装工	6	3	半たわみ性舗装工（上層路盤工） セメント（石灰）安定処理工	敷均し厚さ 転圧状況	各層20m毎又は側点毎に１回 〔施工中〕	代表箇所各１枚	
						整正状況	各層20m毎又は側点毎に１回 〔整正後〕		
						厚さ	各層20m毎又は側点毎に１回 〔整正後〕		
						幅	各層100m毎又は側点毎に１回 〔整正後〕		
6 道路編	2 舗装	3 舗装工	6	4	半たわみ性舗装工 （加熱アスファルト安定処理工）	敷均し厚さ 転圧状況	各層100m毎又は側点毎に１回 〔施工中〕	代表箇所各１枚	
						整正状況	各層100m毎又は側点毎に１回 〔整正後〕		
						幅	各層100m毎又は側点毎に１回 〔整正後〕		
6 道路編	2 舗装	3 舗装工	6	5	半たわみ性舗装工 （基層工）	整正状況	100m毎又は側点毎に１回 〔整正後〕	代表箇所各１枚	
						タックコート、プライムコート	各層毎に１回 〔散布時〕		

編	章	節	条	枝番	工　　種	写　真　管　理　項　目			摘　要
						撮影項目	撮影頻度（時期）	提出頻度	
6 道路編	2 舗装	3 舗装工	6	6	半たわみ性舗装工 （表層工）	整正状況	100m毎又は側点毎に１回 〔整正後〕	代表箇所各１枚	
						タックコート、プライムコート	各層毎に１回 〔散布時〕		
						浸透性ミルク注入状況	100m毎又は側点毎に１回 〔注入時〕		
						平担性	１工事１回 〔実施中〕		
6 道路編	2 舗装	3 舗装工	7	1	排水性舗装工 （下層路盤工）	敷均し厚さ 転圧状況	各層20m毎又は側点毎に１回 〔施工中〕	代表箇所各１枚	
						整正状況	各層20m毎又は側点毎に１回 〔整正後〕		
						厚さ	各層20m毎又は側点毎に１回 〔整正後〕		
						幅	各層40m毎又は側点毎に１回 〔整正後〕		
6 道路編	2 舗装	3 舗装工	7	2	排水性舗装工（上層路盤工） 粒度調整路盤工	敷均し厚さ 転圧状況	各層20m毎又は側点毎に１回 〔施工中〕	代表箇所各１枚	
						整正状況	各層20m毎又は側点毎に１回 〔整正後〕		
						厚さ	各層20m毎又は側点毎に１回 〔整正後〕		
						幅	各層100m毎又は側点毎に１回 〔整正後〕		
6 道路編	2 舗装	3 舗装工	7	3	排水性舗装工（上層路盤工） セメント（石灰）安定処理工	敷均し厚さ 転圧状況	各層20m毎又は側点毎に１回 〔施工中〕	代表箇所各１枚	
						整正状況	各層20m毎又は側点毎に１回 〔整正後〕		
						厚さ	各層20m毎又は側点毎に１回 〔整正後〕		
						幅	各層100m毎又は側点毎に１回 〔整正後〕		
6 道路編	2 舗装	3 舗装工	7	4	排水性舗装工 （加熱アスファルト安定処理工）	敷均し厚さ 転圧状況	各層毎400mに１回 〔施工中〕	代表箇所各１枚	
						整正状況	各層毎400mに１回 〔整正後〕		
						幅	各層100m毎又は側点毎に１回 〔整正後〕		
6 道路編	2 舗装	3 舗装工	7	5	排水性舗装工 （基層工）	整正状況	100m毎又は側点毎に１回 〔整正後〕	代表箇所各１枚	
						タックコート、プライムコート	各層毎に１回 〔散布時〕		
6 道路編	2 舗装	3 舗装工	7	6	排水性舗装工 （表層工）	整正状況	100m毎又は側点毎に１回 〔整正後〕	代表箇所各１枚	
						タックコート、プライムコート	各層毎に１回 〔散布時〕		
						平担性	１工事１回 〔実施中〕		

編	章	節	条	枝番	工　　種	写　真　管　理　項　目			摘　要
						撮影項目	撮影頻度（時期）	提出頻度	
6 道路編	2 舗装	3 舗装工	9		コンクリート舗装工		第１編３－６－６コンクリート舗装工に準ずる。		
6 道路編	2 舗装	3 舗装工	10		薄層カラー舗装工		第１編３－６－７薄層カラー舗装工に準ずる。		
6 道路編	2 舗装	3 舗装工	11	1	ブロック舗装工 （下層路盤工）	敷均し厚さ 転圧状況	各層20m毎又は側点毎に１回 〔施工中〕	代表箇所各１枚	
						整正状況	各層20m毎又は側点毎に１回 〔整正後〕		
						厚さ	各層20m毎又は側点毎に１回 〔整正後〕		
						幅	各層40m毎又は側点毎に１回 〔整正後〕		
6 道路編	2 舗装	3 舗装工	11	2	ブロック舗装工（上層路盤工） 粒度調整路盤工	敷均し厚さ 転圧状況	各層20m毎又は側点毎に１回 〔施工中〕	代表箇所各１枚	
						整正状況	各層20m毎又は側点毎に１回 〔整正後〕		
						厚さ	各層20m毎又は側点毎に１回 〔整正後〕		
						幅	各層40m毎又は側点毎に１回 〔整正後〕		
6 道路編	2 舗装	3 舗装工	11	3	ブロック舗装工（上層路盤工） セメント（石灰）安定処理工	敷均し厚さ 転圧状況	各層20m毎又は側点毎に１回 〔施工中〕	代表箇所各１枚	
						整正状況	各層20m毎又は側点毎に１回 〔整正後〕		
						厚さ	各層20m毎又は側点毎に１回 〔整正後〕		
						幅	各層100m毎又は側点毎に１回 〔整正後〕		
6 道路編	2 舗装	3 舗装工	11	4	ブロック舗装工 （加熱アスファルト安定処理工）	敷均し厚さ 転圧状況	各層100m毎又は側点毎に１回 〔施工中〕	代表箇所各１枚	
						整正状況	各層100m毎又は側点毎に１回 〔整正後〕		
						幅	各層100m毎又は側点毎に１回 〔整正後〕		
6 道路編	2 舗装	3 舗装工	11	5	ブロック舗装工 （基層工）	整正状況	100m毎又は側点毎に１回 〔整正後〕	代表箇所各１枚	
						タックコート、プライムコート	各層毎に１回 〔散布時〕		
6 道路編	2 舗装	3 舗装工			歩道路盤工 取合舗装路盤工 路肩舗装路盤工	敷均し厚さ 転圧状況	各層20m毎又は側点毎に１回 〔施工中〕	代表箇所各１枚	
						整正状況	各層20m毎又は側点毎に１回 〔整正後〕		
						厚さ	各層20m毎又は側点毎に１回 〔整正後〕		
						幅	各層100m毎又は側点毎に１回 〔整正後〕		

編	章	節	条	枝番	工　　種	写　真　管　理　項　目			摘　要
						撮影項目	撮影頻度（時期）	提出頻度	
6 道路編	2 舗装	3 舗装工			歩道舗装工 取合舗装工 路肩舗装工 表層工	整正状況	40m毎又は側点毎に１回 〔整正後〕	代表箇所各１枚	
						タックコート、プライムコート	各層毎に１回 〔散布時〕		
						平担性	１工事１回 〔実施中〕		
						厚さ	1,000㎡に１回		
6 道路編	2 舗装	4 路面排水工	2 3		側溝工 （Ｌ型街渠工） （ＬＯ型街渠工） （プレキャストＵ型側溝工） （管(函)渠型側溝工） 管渠工	据付状況	200m又は１施工箇所に１回 〔施工中〕	適宜	
6 道路編	2 舗装	4 路面排水工	4		街渠桝工・マンホール工 （街梁桝工） （マンホール工）	厚さ 幅 高さ	１施工箇所に１回 〔型枠取外し後〕	適宜	
6 道路編	2 舗装	4 路面排水工	5		排水性舗装用路肩排水工	据付状況	200m又は１施工箇所に１回 〔施工中〕	適宜	
6 道路編	2 舗装	5 防護柵工	2		路側防護柵工		第１編３－３－１１路側防護柵工に準ずる。		
6 道路編	2 舗装	5 防護柵工	3		防止柵工		第１編３－３－１０防止柵工に準ずる。		
6 道路編	2 舗装	6 標識工	3		小型標識工		第１編３－３－９小型標識工に準ずる。		
6 道路編	2 舗装	6 標識工	4		土留・仮締切工		第１編３－１０－５土留・仮締切工に準ずる。		
6 道路編	2 舗装	6 標識工	5	1	大型標識工 （標識基礎工）	幅 高さ	基礎タイプ毎５箇所に１回 〔施工後〕	適宜	
6 道路編	2 舗装	6 標識工	5	2	大型標識工 （標識柱工）	設置高さ	１施工箇所に１回	適宜	
6 道路編	2 舗装	7 道路付属物施設工	3		区画線工		第１編３－３－１２区画線工に準ずる。		

編	章	節	条	枝番	工　　種	写　真　管　理　項　目			摘　要
						撮影項目	撮影頻度（時期）	提出頻度	
6 道路編	2 舗装	7 道路付属物施設工	4		縁石工		第１編３－３－８縁石工に準ずる。		
6 道路編	2 舗装	7 道路付属物施設工	7		道路付属物工		第１編３－３－１３道路付属物工に準ずる。		
6 道路編	2 舗装	7 道路付属物施設工	9	1	組立歩道工	幅	１施工箇所に１回 〔施工後〕	代表箇所各１枚	
6 道路編	2 舗装	7 道路付属物施設工	9	2	組立歩道工（支柱基礎工）	幅 高さ	基礎タイプ毎５箇所に１回 〔施工後〕	適宜	
6 道路編	2 舗装	7 道路付属物施設工	10	1	ケーブル配管工	配管状況	100m又は１施工箇所に１回 〔施工後〕	適宜	
6 道路編	2 舗装	7 道路付属物施設工	10	2	ケーブル配管工（ハンドホール）	厚さ 幅 高さ	100m又は１施工箇所に１回 〔施工後〕	適宜	
6 道路編	2 舗装	7 道路付属物施設工	11		照明工 （照明柱基礎工）	幅 高さ	基礎タイプ毎５箇所に１回 （施工前は必要に応じて） 〔施工前後〕	適宜	

編	章	節	条	枝番	工　　種	写　真　管　理　項　目			摘　要
						撮影項目	撮影頻度（時期）	提出頻度	
6 道路編	3 橋梁下部	3 工場製作工	2		刃口金物製作工	刃口高さ 外周長	1施工箇所に1回 〔仮組立時〕	代表箇所各1枚	
6 道路編	3 橋梁下部	3 工場製作工	3		鋼整橋脚製作工	原寸状況	1脚に1回又は1工事に1回 〔原寸時〕	代表箇所各1枚	
						製作状況	適宜 〔製作中〕		
						仮組立寸法 （撮影項目は適宜）	1脚に1回又は1工事に1回 〔仮組立時〕		
6 道路編	3 橋梁下部	3 工場製作工	4		アンカーフレーム製作工	仮組立寸法 （撮影項目は適宜）	1脚に1回又は1工事に1回 〔仮組立時〕	代表箇所各1枚	
6 道路編	3 橋梁下部	3 工場製作工	5		仮設材製作工	原寸状況	1脚に1回又は1工事に1回 〔原寸時〕	代表箇所各1枚	
						製作状況	1脚に1回又は1工事に1回 〔製作中〕		
6 道路編	3 橋梁下部	3 工場製作工	6		工場塗装工		第1編3－3－15工場塗装工に準ずる。	代表箇所各1枚	
6 道路編	3 橋梁下部	4 橋台工	3		既製杭工		第1編3－4－4既製杭工に準ずる。		
6 道路編	3 橋梁下部	4 橋台工	4		場所打杭工		第1編3－4－5場所打杭工に準ずる。		
6 道路編	3 橋梁下部	4 橋台工	8		躯体工	厚さ 天端幅（橋軸方向） 敷幅（橋軸方向） 高さ 胸壁の高さ 天端長 敷長	全数量 〔型枠取外し後〕	代表箇所各1枚	
6 道路編	3 橋梁下部	4 橋台工	9		土留・仮締切工		第1編3－10－5土留・仮締切工に準ずる。		
6 道路編	3 橋梁下部	5 RC橋脚工	3		既製杭工		第1編3－4－4既製杭工に準ずる。		

編	章	節	条	枝番	工　　種	写　真　管　理　項　目			摘　要
						撮影項目	撮影頻度（時期）	提出頻度	
6 道路編	3 橋梁下部	5 RC橋脚工	4		場所打杭工		第１編３－４－５場所打杭工に準ずる。		
6 道路編	3 橋梁下部	5 RC橋脚工	8		鋼管井筒基礎工		第１編３－４－９鋼管井筒基礎工に準ずる。		
6 道路編	3 橋梁下部	5 RC橋脚工	9	1	ＲＣ躯体工 （張出式） （重力式） （半重力式）	厚さ 天端幅 敷幅 高さ 天端長 敷長	全数量 〔型枠取外し後〕	代表箇所各１枚	
6 道路編	3 橋梁下部	5 RC橋脚工	9	2	ＲＣ躯体工 （ラーメン式）	厚さ 天端幅 敷幅 高さ 長さ	全数量 〔型枠取外し後〕	代表箇所各１枚	
6 道路編	3 橋梁下部	5 RC橋脚工	10		土留・仮締切工		第１編３－１０－５土留・仮締切工に準ずる。		
6 道路編	3 橋梁下部	6 鋼製橋脚工	3		既製杭工		第１編３－４－４既製杭工に準ずる。		
6 道路編	3 橋梁下部	6 鋼製橋脚工	4		場所打杭工		第１編３－４－５場所打杭工に準ずる。		
6 道路編	3 橋梁下部	6 鋼製橋脚工	8		鋼管井筒基礎工		第１編３－４－９鋼管井筒基礎工に準ずる。		
6 道路編	3 橋梁下部	6 鋼製橋脚工	9	1	橋脚フーチング工 （Ｉ型） （Ｔ型）	幅 高さ 長さ	全数量 〔型枠取外後〕	代表箇所各１枚	
6 道路編	3 橋梁下部	6 鋼製橋脚工	9	2	橋脚フーチング工 （門型）	幅 高さ	全数量 〔型枠取外後〕	代表箇所各１枚	

編	章	節	条	枝番	工　　種	写　真　管　理　項　目			摘　要
						撮影項目	撮影頻度（時期）	提出頻度	
6 道路編	3 橋梁下部	6 鋼製橋脚工	10	1	橋脚架設工 （Ｉ型） （Ｔ型）	架設状況	架設工法が変わる毎に１回 〔架設中〕	代表箇所各１枚	
6 道路編	3 橋梁下部	6 鋼製橋脚工	10	2	橋脚架設工 （門型）	架設状況	架設工法が変わる毎に１回 〔架設中〕	代表箇所各１枚	
6 道路編	3 橋梁下部	6 鋼製橋脚工	11		現場継手工	継手部のすき間	１施工箇所に１回 〔施工後〕	代表箇所各１枚	
6 道路編	3 橋梁下部	6 鋼製橋脚工	12		現場塗装工	材料使用量 （塗料缶）	全数量 〔使用前後〕	代表箇所各１枚	
						ケレン状況 （塗替）	スパン毎、部材別 〔施工前後〕		
						塗装状況	各層毎１スパンに１回 〔塗装後〕		
6 道路編	3 橋梁下部	6 鋼製橋脚工	13		土留・仮締切工		第１編３－１０－５土留・仮締切工に準ずる。		
6 道路編	3 橋梁下部	7 護岸工	3 4		笠コンクリート工 法留基礎工		第１編３－４－３法留基礎工に準ずる。		
6 道路編	3 橋梁下部	7 護岸工	5		矢板工		第１編３－３－４矢板工に準ずる。		
6 道路編	3 橋梁下部	7 護岸工	6		コンクリートブロック工		第１編３－５－３コンクリートブロック工に準ずる。		
6 道路編	3 橋梁下部	7 護岸工	8		石張り・石積み工		第１編３－５－５石積（張）工に準ずる。		
6 道路編	3 橋梁下部	7 護岸工	10		植生工		第１編３－３－７植生工に準ずる。		
6 道路編	4 鋼橋上部	3 桁製作工	3	1	桁製作工	原寸状況	１橋に１回又は１工事に１回 〔原寸時〕	代表箇所各１枚	
						製作状況	適宜　〔製作中〕		
						仮組立寸法 （撮影項目は適宜）	１橋に１回又は１工事に１回 〔仮組立時〕		

編	章	節	条	枝番	工　　種	写　真　管　理　項　目			摘　要
						撮影項目	撮影頻度（時期）	提出頻度	
6 道路編	4 鋼橋上部	3 桁製作工	3	2	桁製作工（仮組立による検査を省略する場合）	原寸状況	1橋に1回又は1工事に1回 〔原寸時〕		
						製作状況	適宜 ［製作中］		
						仮組立寸法（撮影項目は適宜）	1橋に1回又は1工事に1回 〔仮組立時〕		
6 道路編	4 鋼橋上部	3 工場製作工	4		検査路製作工	原寸状況	1橋に1回又は1工事に1回 〔原寸時〕		
						製作状況	適宜 ［製作中］		
6 道路編	4 鋼橋上部	3 工場製作工	5		鋼製伸縮継手製作工	原寸状況	1橋に1回又は1工事に1回 〔原寸時〕	代表箇所各1枚	
						製作状況	適宜 ［製作中］		
						仮組立寸法	1橋に1回又は1工事に1回 〔仮組立時〕		
6 道路編	4 鋼橋上部	3 工場製作工	6		鋼製耐震連結装置製作工	原寸状況	1橋に1回又は1工事に1回 〔原寸時〕	代表箇所各1枚	
						製作状況	適宜 〔製作中〕		
6 道路編	4 鋼橋上部	3 工場製作工	7		鋼製排水管製作工	原寸状況	1橋に1回又は1工事に1回 〔原寸時〕	代表箇所各1枚	
						製作状況	適宜 〔製作中〕		
6 道路編	4 鋼橋上部	3 工場製作工	8		橋梁用防護柵製作工	原寸状況	1橋に1回又は1工事に1回 〔原寸時〕	代表箇所各1枚	
						製作状況	適宜 〔製作中〕		
6 道路編	4 鋼橋上部	3 工場製作工	10		横断歩道橋製作工	原寸状況	1橋に1回又は1工事に1回 〔原寸時〕	代表箇所各1枚	
						製作状況	適宜 ［製作中］		
						仮組立寸法（撮影項目は適宜）	1橋に1回又は1工事に1回 〔仮組立時〕		
6 道路編	4 鋼橋上部	3 工場製作工	11	1	鋳造費（金属支承工）	製作状況	適宜 〔製作中〕	代表箇所各1枚	
6 道路編	4 鋼橋上部	3 工場製作工	11	2	鋳造費（大型ゴム支承工）	製作状況	適宜 〔製作中〕	代表箇所各1枚	
6 道路編	4 鋼橋上部	3 工場製作工	12		アンカーフレーム製作工	仮組立寸法（撮影項目は適宜）	1橋に1回又は1工事に1回 〔仮組立時〕	代表箇所各1枚	

編	章	節	条	枝番	工　　種	写　真　管　理　項　目			摘　要
						撮影項目	撮影頻度（時期）	提出頻度	
6 道路編	4 鋼橋上部	3 桁製作工	13		仮設材製作工	原寸状況	1橋に1回又は1工事に1回 〔原寸時〕	代表箇所各1枚	
						製作状況	適宜 〔製作中〕		
6 道路編	4 鋼橋上部	3 工場製作工	14		工場塗装工		第1編3－3－15工場塗装工に準ずる。	代表箇所各1枚	
6 道路編	4 鋼橋上部	4 鋼橋架設工	4 5 6 7 8 9		架設工 （クレーン架設） （ケーブルクレーン架設） （ケーブルエレクション架設） （架設桁架設） （送出し架設） （トラベラークレーン架設）	架設状況	架設工法が変わる毎に1回 〔架設中〕	代表箇所各1枚	
6 道路編	4 鋼橋上部	4 鋼橋架設工	10		現場継手工	継手部のすき間	1スパンに1回 〔架設後〕	代表箇所各1枚	
6 道路編	4 鋼橋上部	5 橋梁現場塗装工	3		現場塗装工	材料使用量（塗料缶）	全数量 〔型枠取外後〕	代表箇所各1枚	
						ケレン状況（塗替）	スパン毎、部材別 〔施工前後〕		
						塗装状況	各層毎1スパンに1回 〔塗装後〕		
6 道路編	4 鋼橋上部	6 床版工	2		床版工	床版の厚さ 床版の幅 鉄筋の有効高さ 鉄筋のかぶり 鉄筋間隔	1スパンに1回 〔打設前後〕	代表箇所各1枚	
6 道路編	4 鋼橋上部	7 支承工	2	1	支承工 （鋼製支承）	支承取付状況	1スパンに1回 〔取付後〕	代表箇所各1枚	
6 道路編	4 鋼橋上部	7 支承工	2	2	支承工 （ゴム支承）	支承取付状況	1スパンに1回 〔取付後〕	代表箇所各1枚	
6 道路編	4 鋼橋上部	8 橋梁付属物工	5		地覆工	地覆の幅 地覆の高さ 有効幅員	1施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所各1枚	
6 道路編	4 鋼橋上部	8 橋梁付属物工	6 7		橋梁用防護柵工 橋梁用高欄工	幅 高さ	1施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所各1枚	

編	章	節	条	枝番	工　　種	写　真　管　理　項　目			摘　要
						撮影項目	撮影頻度（時期）	提出頻度	
6 道路編	5 コンクリート橋上部	4 コンクリート主桁製作工	2	1	プレテンション桁購入工 （けた橋）	断面の外形寸法 橋桁のそり 横方向の曲がり	1スパンに1回　〔製作後〕	代表箇所各1枚	
6 道路編	5 コンクリート橋上部	4 コンクリート主桁製作工	2	2	プレテンション桁購入工 （スラブ橋）	断面の外形寸法 橋桁のそり 横方向の曲がり	1スパンに1回　〔製作後〕	代表箇所各1枚	
6 道路編	5 コンクリート橋上部	4 コンクリート主桁製作工	3		ポストテンションT（I） 桁製作工	シース、PC鋼材配置状況	桁毎に1回 〔打設前〕	代表箇所各1枚	
						幅（上） 幅（下） 高さ	桁毎に1回 〔型枠取外後〕		
						中詰め及びグラウト状況	1スパンに1回 〔施工時〕		
6 道路編	5 コンクリート橋上部	4 コンクリート主桁製作工	4		プレキャストブロック桁購入工	断面の外形寸法	1スパンに1回 〔製作後〕	代表箇所各1枚	
6 道路編	5 コンクリート橋上部	4 コンクリート主桁製作工	5		プレキャストブロック桁組立工	組立状況	1スパンに1回 〔組立時〕	代表箇所各1枚	

編	章	節	条	枝番	工　　種	写　真　管　理　項　目			摘　要
						撮影項目	撮影頻度（時期）	提出頻度	
6 道路編	4 鋼橋上部	8 橋梁付属物工	8		検査路工	幅 高さ	1施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所各1枚	
6 道路編	4 鋼橋上部	9 歩道橋本体工	3		既製杭工		第1編3－4－4既製杭工に準ずる。		
6 道路編	4 鋼橋上部	9 歩道橋本体工	4		場所打杭工		第1編3－4－5場所打杭工に準ずる。		
6 道路編	5 コンクリート橋上部	3 工場製作工	2		プレビーム用桁製作工	原寸状況	1橋に1回又は1工事に1回 〔原寸時〕	代表箇所各1枚	
						製作状況	適宜 〔製作中〕		
						仮組立寸法	1橋に1回又は1工事に1回 〔仮組立時〕		
6 道路編	5 コンクリート橋上部	3 工場製作工	3		橋梁用防護柵製作工	原寸状況	1橋に1回又は1工事に1回 〔原寸時〕	代表箇所各1枚	
						製作状況	適宜 〔製作中〕		
6 道路編	5 コンクリート橋上部	3 工場製作工	4		鋼製伸縮継手製作工	原寸状況	1橋に1回又は1工事に1回 〔原寸時〕	代表箇所各1枚	
						製作状況	適宜 〔製作中〕		
						仮組立寸法	1橋に1回又は1工事に1回 〔仮組立時〕		
6 道路編	5 コンクリート橋上部	3 工場製作工	5		工場塗装工		第1編3－3－15工場塗装工に準ずる。	代表箇所各1枚	

編	章	節	条	枝番	工　　種	写　真　管　理　項　目			摘　要
						撮影項目	撮影頻度（時期）	提出頻度	
6 道路編	5 コンクリート橋上部	4 コンクリート主桁製作工	7 8 9		ＰＣホロースラブ製作工 ＰＣ場所打ホロースラブ製作工 ＰＣ版桁製作工	シース、ＰＣ鋼材配置状況	桁毎に１回 〔打設前〕	代表箇所各１枚	
						幅 厚さ	桁毎に１回 〔型枠取外し後〕		
						中詰め及びグラウト状況	１スパンに１回 〔施工時〕		
6 道路編	5 コンクリート橋上部	6 床版・横組工	2		床版・横組工	幅 厚さ 鉄筋の有効高さ 鉄筋のかぶり 鉄筋間隔	１スパンに１回 〔打設前後〕	代表箇所各１枚	
6 道路編	5 コンクリート橋上部	7 支承工	2	1	支承工 （鋼製支承）	支承取付状況	１スパンに１回 〔取付後〕	代表箇所各１枚	
6 道路編	5 コンクリート橋上部	7 支承工	2	2	支承工 （ゴム支承）	支承取付状況	１スパンに１回 〔取付後〕	代表箇所各１枚	
6 道路編	5 コンクリート橋上部	8 橋梁付属物工	5		地覆工	地覆の幅 地覆の高さ 有効幅員	１施工箇所に１回 〔施工後〕	代表箇所各１枚	
6 道路編	5 コンクリート橋上部	8 橋梁付属物工	6 7		橋梁用防護柵工 橋梁用高欄工	幅 高さ	１施工箇所に１回 〔施工後〕	代表箇所各１枚	

編	章	節	条	枝番	工　　種	写真管理項目			摘　要
						撮影項目	撮影頻度（時期）	提出頻度	
6 道路編	5 コンクリート橋上部	8 橋梁付属物工	9		場所塗装工	材料使用量（塗料缶）	全数量〔使用前後〕	代表箇所各１枚	
						ケレン状況（塗替）	スパン毎、部材別〔施工前後〕		
						塗装状況	各層毎１スパンに１回〔塗装後〕		
6 道路編	12 共同溝	5 現場打ち構築工	2		現場打ち躯体工	厚さ 内空幅 内空高	200m又は１施工箇所に１回〔型枠取外し後〕	代表箇所各１枚	
6 道路編	12 共同溝	5 現場打ち構築工	5		カラー継手工	厚さ 幅 長さ	１施工箇所に１回〔設置後〕	代表箇所各１枚	
6 道路編	12 共同溝	5 現場打ち構築工	6	1	防水工 （防　水）	幅	100m又は１施工箇所に１回〔施工後〕	代表箇所各１枚	
6 道路編	12 共同溝	5 現場打ち構築工	6	2	防水工 （防水保護工）	厚さ	100m又は１施工箇所に１回〔施工後〕	代表箇所各１枚	
6 道路編	12 共同溝	5 現場打ち構築工	6	3	防水工 （防水壁）	高さ 幅 厚さ	１施工箇所に１回〔施工後〕	代表箇所各１枚	
6 道路編	12 共同溝	6 プレキャスト構築工	2		プレキャスト躯体工	据付状況	200m又は１施工箇所に１回〔埋戻し前〕	代表箇所各１枚	

編	章	節	条	枝番	工　　種	写　真　管　理　項　目			摘　要
						撮影項目	撮影頻度（時期）	提出頻度	
6 道路編	13 電線共同溝	3 電線共同溝工	2		管路工	敷設状況	100m又は1施工箇所に1回〔敷設後〕	代表箇所各1枚	
6 道路編	13 電線共同溝	3 電線共同溝工	3		プレキャストボックス工	据付状況	100m又は1施工箇所に1回〔据付後〕	代表箇所各1枚	
6 道路編	13 電線共同溝	3 電線共同溝工	4		現場打ちボックス工	厚さ 内空幅 内空高	100m又は1施工箇所に1回〔型枠取外し後〕	代表箇所各1枚	
6 道路編	13 電線共同溝	4 付帯設備工	2		ハンドホール工	厚さ 幅 高さ	1施工箇所に1回〔型枠取外し後〕	適宜	
6 道路編	16 道路修繕	3 工場製作工	4		桁補強材製作工	原寸状況	1橋に1回又は1工事に1回〔原寸時〕	代表箇所各1枚	
						製作状況	適宜〔製作中〕		
						仮組立寸法（撮影項目は適宜）	1橋に1回又は1工事に1回〔仮組立時〕		
6 道路編	16 道路修繕	4 舗装修繕工	3		路面切削工	幅 厚さ	1施工箇所に1回〔施工後〕	代表箇所各1枚	
6 道路編	16 道路修繕	4 舗装修繕工	4		舗装打換え工	幅 延長 厚さ	1施工箇所に1回〔施工後〕	代表箇所各1枚	
6 道路編	16 道路修繕	4 舗装修繕工	5		切削オーバーレイ工	平坦性	1施工箇所に1回〔施工後〕	代表箇所各1枚	
						タックコート	各層毎に1回〔散布時〕		
						整正状況	400mに1回〔施工後〕		
6 道路編	16 道路修繕	4 舗装修繕工	6		オーバーレイ工	平坦性	1施工箇所に1回〔施工後〕	代表箇所各1枚	
						タックコート	各層毎に1回〔散布時〕		
						整正状況	400mに1回〔施工後〕		
6 道路編	16 道路修繕	4 舗装修繕工	7		路上再生路盤工	敷均厚 転圧状況	各層毎400mに1回〔施工中〕	代表箇所各1枚	
						整正状況 厚さ	各層毎400mに1回〔施工後〕		

編	章	節	条	枝番	工　　種	写　真　管　理　項　目			摘　要
						撮影項目	撮影頻度（時期）	提出頻度	
6 道路編	16 道路修繕	4 舗装修繕工	8		路上表層再生工	整正状況	400mに１回〔整正後〕	代表箇所各１枚	
						平坦性	１工事に１回〔実施中〕		
6 道路編	16 道路修繕	4 舗装修繕工	9		プレキャストＲＣ舗装版工	据付状況	200m又は１施工箇所に１回〔施工中〕	代表箇所各１枚	
6 道路編	16 道路修繕	4 舗装修繕工	10	1	歩道舗装修繕工 （歩道路盤工） （取合舗装路盤工） （路肩舗装路盤工）		第１編３－６－５アスファルト舗装工に準ずる。		
6 道路編	16 道路修繕	4 舗装修繕工	10	2	歩道舗装修繕工 （歩道舗装工） （取合舗装工） （路肩舗装工） （表層工）		第１編３－６－５アスファルト舗装工に準ずる。		
6 道路編	16 道路修繕	5 道路構造物修繕工	2		排水構造物修繕工	厚さ 高さ	１施工箇所に１回〔修繕後〕	代表箇所各１枚	
6 道路編	16 道路修繕	6 橋梁修繕工	7		鋼桁補強工	原寸状況	１橋に１回又は１工事に１回〔原寸時〕	代表箇所各１枚	
						製作状況	適宜〔製作中〕		
						仮組立寸法 （撮影項目は適宜）	１橋に１回又は１工事に１回〔仮組立時〕		
6 道路編	16 道路修繕	6 橋梁修繕工	8		伸縮継手修繕工（ゴムジョイント）	厚さ 幅 延長	１施工箇所に１回〔修繕後〕	代表箇所各１枚	
6 道路編	16 道路修繕	6 橋梁修繕工	10	1	ＰＣ橋支承修繕工・鋼桁支承修繕工（鋼製支承）	支承取付状況	１スパンに１回〔取付後〕	代表箇所各１枚	
				2	ＰＣ橋支承修繕工・鋼桁支承修繕工（ゴム支承）	支承取付状況	１スパンに１回〔取付後〕	代表箇所各１枚	
6 道路編	16 道路修繕	7 現場塗装工	6		コンクリート面塗装工		第１編３－３－１６コンクリート面の塗装工に準ずる。		

編	章	節	条	枝番	工種		写真管理項目 撮影項目	写真管理項目 撮影頻度（時期）	提出頻度	摘要
その他					舗装工関係	橋面防水工	塗付又は設置状況	1施工箇所に1回 〔施工中〕	代表箇所各1枚	
					維持修繕工関係	アスファルト舗装	打換パッチング	施工日に1回 〔施工前後〕	適宜	
						コンクリート舗装	目地掃除	3,000㎡に1回 〔施工前後〕	適宜	
							目地充填	3,000㎡に1回 〔施工後〕		
							注入工、削孔状況（位置、間隔）	2,000㎡に1回 〔削孔後〕		
							注入工、注入圧	2,000㎡に1回 〔注入時〕		
							目地亀裂防止材、張付け状況	3,000㎡に1回 〔張付け後〕		
							局部打換、各層厚さ	各層毎100mに1回又は1施工箇所に1回 〔施工前後〕		
						路肩、路側路盤工	厚さ	100mに1回又は1施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所各1枚	
						道路除草	施工状況	2kmに1回（1回刈毎） 〔施工前後〕	適宜	
						路肩整正	施工状況	1kmに1回	適宜	
						新設、更新、修理防護柵類	施工状況	1施工箇所に1回 (施工前は必要に応じて) 〔施工前後〕	適宜	
						新設、更新、修理標識類	基礎幅、深さ、施工状況	基礎タイプ毎5ヶ所に1回（施工前は必要に応じて） 〔施工前後〕	適宜	
						新設、更新、修理照明灯	基礎幅、深さ、施工状況	基礎タイプ毎5ヶ所に1回（施工前は必要に応じて） 〔施工前後〕	適宜	
						視線誘導標	施工状況	施工日に1回 〔施工後〕	適宜	
						清掃（路面、標識、側溝、集水桝）	施工状況	施工日に1回 〔施工前後〕	適宜	
						区画線路面表示	施工状況	施工日に1回 〔施工前後〕	適宜	
							材料使用量	全数量 〔施工前後〕	適宜	
						街路樹植樹	施工状況	適宜 〔施工前後〕	適宜	
						街路樹補強補植	施工状況	適宜 〔施工前後〕	適宜	
						街路樹剪力	施工状況	街路樹50本1回、グリーンベルト100m1回 〔施工前後〕	適宜	

編	章	節	条	枝番	工種			写真管理項目			摘要
								撮影項目	撮影頻度（時期）	提出頻度	
その他					維持修繕工関係		街路樹消毒、施肥	施工状況	街路樹50本１回、グリーンベルト100m１回〔施工中〕	適宜	
							街路樹雪囲	施工状況	適宜〔施工後〕	適宜	
							排雪除雪	施工状況、機種	施工中に１回〔施工中〕	適宜	
							凍結防止剤散布	施工状況	施工中に１回〔施工中〕	適宜	
								材料使用料	全数量〔施工前後〕	適宜	
							河川除草	施工状況、刈草処理状況	１kmに１回（１回刈毎）〔施工前後〕	適宜	
						鉄筋・無筋コンクリート関係	配筋	位置、間隔、継手寸法	打設ロット毎に１回又は１施工箇所に１回〔組立後〕	適宜	
							コンクリート打設	打継目処理、締固施工状況	工種種別毎に１回〔施工時〕	１施工ブロック各１枚	
							養生	養生状況	工種種別毎に１回、養生方法毎に１回〔養生時〕		

編	章	節	条	枝番	工　　種	写　真　管　理　項　目			摘　要
						撮影項目	撮影頻度（時期）	提出頻度	
5 下水道編	1 管路	10 立坑工	3		矢板工（鋼矢板・軽量鋼矢板）	根入長	1施工箇所に1回 〔打設前後〕	代表箇所各1枚	
						数量	全数量 〔打込後〕		
5 下水道編	1 管路	10 立坑工	4		深礎工 （ライナー等）	根入長	全数量 〔掘削後〕	代表箇所各1枚	
						偏心量	全数量 〔リングごと・打込後〕		
						数量	全数量 〔掘削後〕		
						ﾗｲﾅｰﾌﾟﾚｰﾄ 設置状況	1施工箇所に1回 〔施工中〕		
						裏込め注入状況	1施工箇所に1回 〔施工中〕		
5 下水道編	1 管路	10 立坑工	5		鋼製ケーシング立坑	施工状況	全数量 〔掘削後〕	代表箇所各1枚	
						圧入状況	全数量 〔リングごと・打込後〕		
						掘削状況	1施工箇所に1回 〔施工中〕		
						引抜状況	1施工箇所に1回 〔施工中〕		
						立坑深	1施工箇所に1回 〔施工後〕		
						偏心量	全数量 〔ケーシングごと〕		
5 下水道編					半たわみ性舗装工 （下層路盤工）	敷均し厚さ 転圧状況	各路線毎及び変化点に1回 〔施工中〕	代表箇所各1枚	
						整正状況	各路線毎及び変化点に1回 〔整正後〕		
						厚さ	各路線毎及び変化点に1回 〔整正後〕		
						幅	各路線毎及び変化点に1回 〔整正後〕		
5 下水道編					半たわみ性舗装工（上層路盤工） 粒度調整路盤工	敷均し厚さ 転圧状況	各路線毎及び変化点に1回 〔施工中〕	代表箇所各1枚	
						整正状況	各路線毎及び変化点に1回 〔整正後〕		
						厚さ	各路線毎及び変化点に1回 〔整正後〕		
						幅	各路線毎及び変化点に1回 〔整正後〕		
5 下水道編					半たわみ性舗装工（上層路盤工） セメント（石灰）安定処理工	敷均し厚さ 転圧状況	各路線毎及び変化点に1回 〔施工中〕	代表箇所各1枚	
						整正状況	各路線毎及び変化点に1回 〔整正後〕		
						厚さ	各路線毎及び変化点に1回 〔整正後〕		
						幅	各路線毎及び変化点に1回 〔整正後〕		

編	章	節	条	枝番	工　　種	写　真　管　理　項　目			摘　要
						撮影項目	撮影頻度（時期）	提出頻度	
5下水道編					半たわみ性舗装工（表層工）	整正状況	各路線毎及び変化点に1回〔整正後〕	代表箇所各１枚	
						タックコート プライムコート	各層路線毎及び変化点に1回〔散布時〕		
						平坦性	１工事１回〔実施中〕		
						厚さ	各層路線毎及び変化点に1回〔整正後〕		
5下水道編					半たわみ性舗装工（基層工）	整正状況	各路線毎及び変化点に1回〔整正後〕	代表箇所各１枚	
						タックコート プライムコート	各層路線毎及び変化点に1回〔散布時〕		
						幅	各層路線毎及び変化点に1回〔整正後〕		
						厚さ	各層路線毎及び変化点に1回〔整正後〕		
5下水道編	1管路	11地盤改良工			地盤改良工 薬液注入工	位置・間隔	１施工箇所に１回〔施工前〕	代表箇所各１枚	
						杭径	１施工箇所に１回〔施工後〕		
						深度	４施工箇所に１回〔施工後〕		
						ボーリング状況	１施工箇所に１回〔施工中〕		
						水圧テスト状況	１施工箇所に１回〔施工中〕		
						グラウト状況	１施工箇所に１回〔施工中〕		
5下水道編	1管路				管渠工	据付状況	各路線毎に1回〔埋戻し前〕	代表箇所各１枚	
					取付管工	据付状況	３箇所毎に1回〔埋戻し前〕	代表箇所各１枚	
5下水道編	1管路	8マンホール工			人孔築造工	施工状況	1施工箇所に1回〔埋戻し前〕	代表箇所各１枚	
						厚さ	1施工箇所に1回〔埋戻し前〕		
						幅	1施工箇所に1回〔埋戻し前〕		
						高さ	1施工箇所に1回〔埋戻し前〕		
						配筋検尺	変化点毎に1箇所〔配筋完了後〕		
5下水道編					路面切削工	施工状況	各路線毎に1回〔施工中〕	代表箇所各１枚	
						厚さ	各路線毎に1回〔施工後〕		
5下水道編	1管路	4管渠工	2		掘削工	幅	各路線毎に1回〔施工後〕	代表箇所各１枚	
						高さ	各路線毎に1回〔施工後〕		
						施工状況	各路線毎に1回〔施工中〕		
5下水道編	1管路	4管渠工			シールド	掘削の地山状態	地質の変化の毎に1回〔掘削中〕	代表箇所各１枚	
						セグメント組立状況	１工事に１回〔組立後〕		
						二次覆工(セグメント清掃状況)	１工事に１回〔清掃後〕		
						二次覆工の厚さ	１スパンに１回〔型枠取り外し後〕		

編	章	節	条	枝番	工　　種	写　真　管　理　項　目			摘　要
						撮影項目	撮影頻度（時期）	提出頻度	
5 下水道編	1 管路	4 管渠工	4		管基礎工	幅	各路線毎に1回 〔施工後〕	代表箇所各１枚	
						高さ	各路線毎に1回 〔施工後〕		
						施工状況	各路線毎に1回 〔施工中〕		
5 下水道編	1 管路	4 管渠工	4		コンクリート基礎工	幅	各路線毎に1回 〔施工後〕	代表箇所各１枚	
						高さ	各路線毎に1回 〔施工後〕		
						延長	各路線毎に1回 〔施工後〕		
						施工状況	各路線毎に1回 〔施工中〕		